

**KEIO SFC REVIEW**

**24**

特集

# 大学で培う教養

連載

時をこえて「世界を映し、溶け込む—ソフトエンバイラメント—」—政策・メディア研究科チアシップ教授 葉祥栄

異国の風「メキシコ 誇り高きコーヒーを運ぶ」—山本純一研究会「フェアトレード・プロジェクト」

もしもし、こちら看護医学部です! 「豊かな食って、何ですか?」—看護医学部助手 佐藤祐子

SFCのこれからを考える「SFCでしかできること」—看護医学部専任講師 宮川祥子

キャンパスへ帰ろう「遠藤で、逢いました。」—SFCホームカミングデイ 2004



**特集****04 大学で培う教養**

06 プチ文学 ネットワークコミュニティと教養

08 SFC卒業生・在学生が考える教養

10 SFCの授業から見る教養

12 企業人に聞く! 教養は思考のバックボーン 株式会社資生堂常勤顧問 森靖孝氏

14 企業人に聞く! 教養は知の栄養素 日本生命保険相互会社融資総務部長 西河敦氏

16 【対談】るべき教養教育をプロトタイピングする 慶應義塾大学教養研究センター所長 横山千晶  
× 総合政策学部専任講師 井庭崇

20 人生を、機嫌よく楽しむ教養 福田和也 環境情報学部教授インタビュー

**連載**

02 時をこえて 第3回

世界を映し、溶け込む ソフトエンバイラメント  
政策・メデア研究科シェアシップ教授 葉祥栄

22 When I was young 第14回

現場から見る世界  
環境情報学部教授 ティースマイヤ・リン

24 Co-net 第13回

ニュースの料理人  
読売新聞社 森重達裕さん

26 キャンパスへ帰ろう 第11回

遠藤で、逢いました。  
SFCホームカミングデイ2004

28 SFCのこれからを考える 第3回

SFCでしかできないこと  
看護医療学部専任講師 宮川祥子

30 異国の風 第10回

メキシコ 誇り高きコーヒーを運ぶ  
山本純一研究会「フェアトレード・プロジェクト」

32 もしもし、こちら看護医療学部です！ 第3回

豊かな食って、何ですか？  
看護医療学部助手 佐藤祐子

36 KEIO SFC REVIEW バックナンバー

38 編集後記

39 付録 make your campus no.14

Σ(シグマ)館

# 葉祥栄 政策・メディア研究科チエアシップ教授に聞く 世界を映し、溶け込む —ソフトエンバイラメント—

「デコンストラクティヴィズム（注1）からフォールディング（注2）、そしてライトアーキテクチャー（注3）へ。建築は解体され続け希薄な存在になっています。文明が進むにつれて、建築は必要な分だけの材料でつくれられるようになってきました。風が強い土地では、風に耐えられる鋼材を使う。これが近代の建築手法です。しかし、こうした手法は概して対応能力が低く、建物は速いスピードで建て替えられていくのです。パリやローマでは三百年、四百年前の建物が今も使われている反面、日本では多くの建築が取り壊されているのが現実です」。葉教授は、建築の永遠性を追求している。そのために必要なふたつの要素が、今のSFCにはある。時の流れや環境の変化に対応できること、そして、人に愛着を持たれることだ。

一九九七年、開設から十年も経たないSFCは、ファシリティマネジメント（注4）の必要性に迫られていた。建物が、コンピュータの大容量設置・使用によって発せられる熱の処理に対応できなくなつたのである。特定のシステムやエネルギーに依存してしまう状況は、建築に対する負荷の点から見て、好ましくない。しかし「コンピュータありき」で始まつた日本初のキャンパスとしては、その利用を減らすわけにはいかなかつた。

負荷を分散するため、*Keio*館（講義・研究棟）には空調機が増設され、コンピュータの発熱を抑えるため、季節を問わずクーラーが回された。こうした対策によつて電気消費量が激増するなかで、ガスによるコジェネレーション（注5）や燃料電池による発電の導入を推進したのが葉教授であつた。こうして、環境の変化への対応能力を問われていたSFCは、エネルギーの多様化に当面の解決策を見出したのだった。

多様なエネルギー源と発電システムが可能にする長期的な解決策を得ることによって、情報技術系中心の研究棟の建設を望む声が高まつていた。そこで葉教授は、工

(注1) デコンストラクティヴィズム：脱構築主義。フランスの哲学者ジャック・デリダの提唱した「デコンストラクション」に由来する。モダニズムの表象を読み替え、その意味をずらしてゆくことによって新たな解釈を引き出す手法。

(注2) フォールディング：折りたたみの機能を持つ、形態操作のひとつ。

(注3) ライトアーキテクチャー：軽量の建築。

# 時をこえて

## 第三回

キヤンバスで起る変化は、施設や設備に関するところばかりではない。「入学と卒業という大学特有の人の流れや、春が来て夏が来るような季節こそ、キヤンバスに命を吹き込むのです」。葉教授が言うとおり、視界を遮るもののがほとんどないガラスの建築のなかから見る景観は、生き生きとしている。今にも頬を優しくなでる風が吹いてきそうだし、豊かな緑の香りが運ばれてきそうな感覺を覚える。外からみたガラスの建築は、外界を反射している時もあれば、透過していることもある。まるで世界に溶け込んでいるようだ。

あらゆる二一ノズに沿つていく対応能力こそが、時をこえる建築に求められる要素である。そして、そういうつた建築にこそ、人は集うかも知れない。「人に愛されてこそ、建築は生き続けるのです。時とともに色褪せず、むしろ輝きを増すような建物をつくっていきたいと思つています」。

エネルギーの無駄、無理、そしてムラを減らす適正な制御システムとセンサーおよびプログラムを備えた建物の設計に着手した。

キヤンバスの増築場所として「地中」が提案され、地熱利用の熱交換が実験されたが、熱交換の限界がありにも早く、実現には至らなかつた。断熱材を利用することも不可能だった。内部にコンピュータという発熱体があるため、断熱材が熱を包み込む布団のような役割を果たしてしまうのだ。

採用されたのは、放熱素材のガラスを利用する案だつた。ガラスの建築は、エネルギーへの対応能力が大きい。それだけでなく、交換も容易なので、メタボリズム（注6）的な施設のリニューアルにも対応できる。葉教授はガラスの機能性だけでなく、非物質性にも注目する。「ガラスはふたつの意味で非物質的だといえます。第一に、コンクリートなどと違ひ物質性が低い。そして、その透明さゆえに、外界に溶け込み世界との隔たりをなくす、という意味でも物質性は低いでしよう」。

(注4) ファシリティマネジメント：ここでは施設や建造物などを経営的観点から計画・管理・運営する活動をさす。

(注5) コジェネレーション：一つのエネルギーから電気や熱などの、複数のエネルギーを同時に取り出す手法。

(注6) メタボリズム：「代謝」を意味する生物学上の用語であり、建築においては、都市や建築の構成要素の更新による可変性を意味する。

きょうよう、ようじゅう [教育] ①教育すること。② (culture) 文化的理想を体得し、それによって個人が身につける創造的な理解力や知識。その内容は時代や民族の変遷に応じて異なる。「人文主義的」(Bildungsromane) 主人公の人格の形成・発展を中心とした小説。ドイツ文学者の主流の「古典主義」など、各古典学部に対し一般教養科目等を学習することを目的とする期別一年の課程。第一次大戦後から、文部省が実現する。

# 大学で培う教養

教養が、求められている。社会で、大学で、就職活動の面接で、はたまた友人との会話で。

戦後長く続いた四年制大学の教養課程が廃止されてすでに久しい。ところが近年、「教養」を掲げる大学・学部・学科が新設される傾向にある。(一九〇二年には、慶應義塾においても教養研究センター(日吉キャンパス・来往舎に所在)が開設された。大学教育の新たなテーマとして「教養」がふたたび浮かび上がってきていることは間違いない。

学生は、どのようにして教養を身につければいいのか。大学はそれをどのようにして教えることができるのか。「教養」とはそもそも、何なのだろうか。

本特集では、学生・教員・企業人など各方面から教養に対する認識を聞き出し、教養のあり方について示唆するとともに、大学が教養教育に果たし得る役割について考える。

# 『国語学習辞典』(日本標準)

きょうじゅう（教養） 読書は、**教養**を身につけるのに役だつ。たかなか。

- ◎ 6 プチ文学 ネットワークコミュニケーションと教養
- ◎ 8 SFC卒業生・在学生が考える教養
- ◎ 10 SFCの授業から見る教養
- ◎ 12 企業人に聞く！ 教養は思考のバックボーン  
株式会社資生堂常勤顧問 森靖孝氏
- ◎ 14 企業人に聞く！ 教養は知の栄養素  
日本生命保険相互会社融資総務部長 西河敦氏
- ◎ 16 【対談】あるべき教養教育をプロトタイプングする  
慶應義塾大学教養研究センター所長 横山千晶×  
総合政策学部専任講師 井庭崇
- ◎ 20 人生を、機嫌よく楽しむ教養  
福田和也環境情報学部教授 インタビュー

**教養** (culture) 知的な訓練によって精神を豊かにすること。博識や多識とは異なる。精神の豊かさを具体的に測定したり検証したりする手段がなく、抽象的かつ主観的な価値で、精神の豊かさを示す価値といえる。また次世代に伝承される生活様式の文化も意味する。戦後、現行の大学制度では、前期2年または1年半を、一般教育を行う教養課程として設けている。後期専門課程では知識・技術が具体的であるのに対し、教養は学問そのものを問い合わせ、学問を学ぶための資質の養成を目的としている。具体的には探求心、理論的思考力、批判的分析力、数理的理解力、言語表現力などをさす。

(鈴木)

# 「チチ文学」[ネットワークコミュニケーションと教養]

◎「チチ文学」(熊坂賢次(環境情報学部教授)研究会)は、絵本や児童文学を楽しむ人を対象としたウェブサイトを中心とするプロジェクトである。絵本や子育てにまつわるコラム、児童文学に関するエッセイ、絵本や児童文学を通じて感じたことや考えたことをあらわす層の人が発信し、ネットワーク読み聞かせしている人の映像などを載せている。母親や子供に限らず、絵本や児童文学を通じて感じたことや考えたことをあらわす層の人が発信し、ネットワーク上で相互的にやり取りをしようという目的でつくられた定義し、その今後の方

◎ここでは、「チチ文学」における教養はいかなるものかを定義し、その今後の方向性を探る。「チチ文学」代表の松尾妙さん(政策・メディア研究科修士課程卒業年)と監修の飯尾健太郎さん(同研究科博士課程卒業)が語る。

## 「チチ文学」における教養

### 「ドキュメンタリー」を通じて 絵本を見直す

まず「チチ文学」の主題の一つとしての「教養」を理解するために、近代ヨーロッパで重視された「教養」との違いを明確にしたいと思います。近代ヨーロッパでは、経済力をつけた市民(ブルジョアジー)は、政治的な発言力や利益の維持のために、貴族社会に入り込もうとしました。そこで、重要な効果を持つたのが、「教養」としての「言説」だった、とハーバーマスは「公共性の構造転換」の中で指摘しています。言説は貴族たちの「文芸的な公共圏」に入るときの通行許可証となっていました。つまり近代ヨーロッパでの「教養」は経済的・政治的な動機と密接に結びついているものだったのです。

一方で「チチ文学」が考える「教養」とは、日常的な経験や日々の生活の中で育まれるもので、上のような教養とは異なる位置にある筈のものです。そもそも、「チチ文学」は一九三〇年代の「事実の文学」という文学運動を下敷きにしているのですが、これは「物語批判」、すなわち「近代の教養批判」をしたといつてもよい運動です。中心人物は、トレチャコフという写真家でも編集者でもある人でした。彼は、パン屋、看板屋、農業家などいろいろな職業の人とのところに行つて、色々な方の「生活や経験」を「言葉」として集め、「生活の文書化」を推し進めることにより、それまでの「文學」や「物語」のあり方に疑問を投げかけた、と言つていい。「文学は誰のためのものなのだろう? 誰のためになつていいのではないか?」と。トレチャコフが参考していたのは、「日常生活の文書化」を提案していた、ベンヤミンの「生産者としての作家」という論考です。ベンヤミンは、世論と政治的な公共圏を作る「新聞」というメディアのつまらぬさをまず批判します。「新聞では言葉が均質化されていて、これによつて、読者が均質化してきている。だから人々の経験の意味が低下しちゃっているのではないか」と。今はインターネットに接している人々が感じる、最大公約数的で一方通行の「マスメディアのつまらなさ」と、この問題はどうしても似ていると思います。経験の意味が低下すると言うのは、生活のあらゆる局面を理解することです。一方で、ベンヤミンが念頭において書いていたのは、ベルトルト・ブレヒトという劇作家で、ベンヤミンとブレヒトの二人のことを念頭に置いて映画を作っていたのが、ジャン=リュック・ゴダールという映画監督です。「チチ文学」は、ゴダールの『彼女について知っている二、三の事柄』(一九六六年)という映画も下敷きにしています。この映画の目的は、私たちの言葉でいえば「ドキュメンタリーを通じて、フィクションを再発見したい」というものです。つまり、「ドキュメンタリー=皆の生活や経験」を通して、「フィクション=文学や映画や、教養や一般的な通念とされるもの」を検証したり、位置づけたり、理解し直したい、ということです。あるいは、「フィクション」がもつてゐるポテンシャルを、「皆が生活している空間」の中に置き直すことによって、懐の広い、ゆたかなものとして鍛えなおしていきたい、などということです。これは「事実の文学」の精神とも通底するテーマだと思います。「フィクション」を

絵本・児童文学」と言い換えると、そのまま「プチ文学」の教養のあり方になります。「プチ文学」は「ドキュメントリー（皆さんの経緯）を通じて、絵本・児童文学を発見し直したい」サイトです。

## ネットワークコミュニティと教養の可能性

### 「こだわり」だけでなく、「こだわり」にいたる経緯を共有する

「プチ文学」では、読者がそれぞれに豊かな感受性で文学を受け止め、それを貶めずに異なるものを持ち帰ってもらえる空間を作ることを目指しています。これが美食家の場合なら、料理を口にしながらそれを検証するための、つまり美味しかかどうかという価値判断を行ないつつ、それを整理できる空間を彼らが持っているということです。本人が格別に美食家でなくとも、その気になればそこにアクセスして参照することができる。

つまり、価値判断によって個人的な「教養」を成り立たせるだけでなく、情報や感想をお互いにやりとりできるようにすることで、自發的かつ相互的な活動をする場にもなり得る。ネットワーク上でのブログや掲示板には、こういった価値判断を蓄え、相互にコミュニケーションを取ることのできる可能性があると考えています。

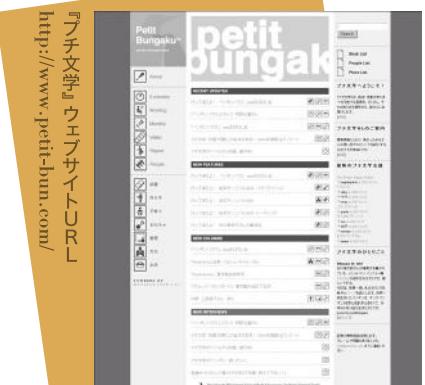
ネットワーク上の「教養」がいかなるものかは考える必要がありますが、「プチ文学」は絵本・児童文学がもたらす喜

びに「こだわって」みたいサイトです。「たくさんの教養」をネットワーク上で相互的にやり取りでき、アーカイブし、誰でもどこからでも思い立った時に見つけることができます。ネットワークには、経済や政治的利益、個人的な損得などとは直接的に関係なく、教養が存在し得るというよさがあります。絵本・児童文学は手軽に読みますが、ちゃんとどこかで普遍的なものと手を結んでいるような、感触や歴史がある。ですから、「プチ文学」の「サイトとしての形」＝教養のある方の提案に、「絵本・児童文学」にそもそも備わっている人間らしさが少しずつでも集まつてくるとしたら、これほど悦ばしいことはありません。

## 「プチ文学」のこれから

### ウェブサイトを超えた活動へ

今後はメールマガジンの配信と本の出版、モブログ（携帯電話からウェブログに投稿できるシステム）などウェブログの機能を十分に活かしたページの作成に力を入れたいと考えています。また、今はウェブサイト上でしか公開していない記事を編集して本にまとめるなど、市場に関わって何かできたらいいなと思っています。これからよいよ活動が本格化するので、興味を持つてくださった方は、ぜひ活動に参加してください。



# 【SFC卒業生・在学生が考える教養】



天笠邦一（あまがさくにかず）  
政策・メディア研究科修士課程1年、ケータイラボ・  
小檜山研究会所属。専門はMedia Ethnography。  
入学時から地域活動に尽力。湘南台冬の風物詩  
「イルミネーション湘南台」に立ち上げから参加。



押川淳（おしかわ・じゅん）  
政策・メディア研究科修士課程2年。國枝研究会、  
堀研究会所属。日本現代詩、とくに鮎川信夫に  
ついて研究している。

寄稿

## 「現場」で脱ぎ捨てるべき、教養

辞書は「教養」の意味を、「理想」「理念」といったキーワードを用いて語ります。ここから連想される「教養」は、身に付けるべき目標、人の「あるべき姿」です。しかし、裏返せば「教養」は、「持つ者」と「持たざる者」を峻別し、差異化を促すツールともいえます。この差異は、特定集団の特権を正当化し、人々の向上心を煽り、社会に近代的秩序を与えてきました。

「教養」はイデオロギーであり、高度に政治的な道具なのです。更に言えば「教養」には中身がない。これが「教養」だと言い切れるモノが存在しません。「あるべき姿の入れ物」が「教養」なのです。これは、中身を自分で作れる分、「教養」を利用する側に取っては好都合です。

これは、「教養」に限った話ではないのですが、あるべき姿・イデオロギーを含んだ概念には、そのゴールの良し悪しに関わらずある種の難しさが付きまといます。自分の研究分野であるメディアと絡めて話をすると、インターネットの「自律分散協調」が良い例です。「自律分散協調」という理念にモチベートされた技術者たちの手により爆発的な普及を果したインターネットですが、その理念は現在、「自律」の難しい多くの人々の参加を阻害し、幅広い層への普及の障害となっています。イデオロギーを持たず、より早く幅広い層に普及したケータイと好対照です。

僕たちは、「教養」が生み出す構造に対して、自覚的にならなければなりません。確かに大学や学会でのアカデミックな活動には必要不可欠な「教養」ですが、実社会に対するアプローチではむしろ邪魔になる。経験談ですが、僕が学部時代からずっと参加してきた地域活動では、「教養」を振りかざしても自分と地域との間に壁を作るだけでした。

「教養」は身に付けるのに高い代償が必要な分、捨てるには勇気が要ります。しかし、特にSFCという環境では、逆説的ですが「教養」を脱ぎ捨てる「教養」も必要なのだと思います。

談話

## 「大学生」とはどういう状況なのか？

詩の魅力は二つあります。まず、いわゆる比喩のような、意味としての言葉が持つ柔軟性や可能性という面白さ。そして、リズムや韻律のような、音としての言葉が持つ面白さ。私の研究対象は、1940年代から60年代にかけての日本文学、特に現代詩です。SFCでは比較的珍しい存在かもしれませんね。詩を教養として捉えるならば、どういう意味や可能性があるのか、考えてみました。

小学校のときに、詩を音読させられたりしますよね。あれは、言葉の持つ「意味」だけではなく「リズム」によってどういうふうにメッセージを伝えていくか、ということを学ばせたいんじゃないかなと思うんです。国語という科目的枠内ではなく、「日本語」あるいは「言語」という枠で、しかも詩をひとつのケーススタディとして考えるともっと面白くなると思いますよ。

でも、いわゆる「教養=人文学」という考え方は神話のようなものではないでしょうか。例えば、団体を運営するとはどういうことなのか、危機に陥った場合どう打開していくのか、そういったことは何かのスポーツをやっていても学べますよね。教養を「人生における何らかの知識」と捉えるなら、すべてのことが教養になり得るんです。だから、大学の講義でしか教養を得られないとは全く思えません。

しかしもちろん、大学時代だからこそできる教養へのアプローチというものもあると思います。歴史的に見たら、日本での大学生という身分は、それほど古くからあるわけではないと思うんです。世界中を見回せば、今現在だって珍しい存在ですよね。こんな状況に4年間も身を置くことは、卒業してしまったらなかなかない。自分が不確かだということを意識しながらあえていろいろな知識を蓄えていくということは、他者を思いやるような想像力を養うことにつながるのではないかと思う。大学時代に教養を培おうとするなら、まず「大学生」とはどういう状況なのか、これを理解することが第一歩になると考えています。

「教養」の捉え方は、その人の立場や経歴、興味などによって大きく違が出てくるだろう。ここでは、大学生でありSFC生でもある人、そして、かつて大学生でありSFC生であった人に、それぞれの専門を切り口にして教養を考えてもらう。



談話

## 「己を知る」茶道

### 自分を知っている、という教養

茶の湯(茶道)は、一種の知的ゲームと言えます。茶の湯には、美術工芸品や焼き物、書画といった日本文化の教養のエッセンスが全て入っていて、更に書画の内容を読むためには、漢文や古典の素養も必要になります。例えばお茶会で茶碗の銘が「昔男」だとしたら、『伊勢物語』の冒頭は「昔男ありけり」なので、在原業平のことだ、と頭の中で世界が広がらないと楽しめないわけです。亭主が「お客様がイケメンだから、おもてなしとして『昔男』っていう銘のものを使って、今日は在原業平になぞらえました」としゃべってしまった面白くも何ともない。そういう知識を前提に、コミュニケーションを図って、関係を深めるわけです。安土桃山時代に信長や秀吉があれだけお茶を熱心にやったのは、インスタントに教養人になれるため。お茶を学ぶことで、日本文化の上澄みみたいなものはすぐえるわけです。

「知っている」ということで、余裕ができるのでその場を楽しめし、常に自分を振り返ることができますよね。知らないことを「知らない」と言えるのも、教養の一つ。今の自分を構成するもの、自分が知っている範囲をきっちり把握することは大事ですよね。お茶でお客様をもてなすのも、結局は自分をもてなしているのかもしれない。相手のためにと言っても、自分が起点になっている以上結局は相手を通して自分を見ている。だから、自分を納得させるおもてなししが、一番心をつくしたものになるんでしょうね。自分を納得させるというのは実はすごく大変なことだから。そのためには、自分を知っているということが重要になってきます。

### 手段が目的化するとき

お茶といえば作法というイメージが強いけれど、それは「手段の目的化」ですね。お茶はもともと教養として楽しむ知的ゲームだったのが、特に戦後は、財閥解体などでそれまでお茶を

### 武者小路千家官休庵・家元後嗣（十五世次期家元）

本名、千方可（せん・まさよし）。1975年生まれ。98年度環境情報学部卒業後、慶應義塾大学文学部に学士編入、文学研究科修士課程修了。専攻は日本美術史（中世絵画史）。現在、明治学院大学非常勤講師として、日本美術史を講じる。著書に『ドッグギャラリー』、『やさしい茶席の禅語』。インタビュー集に『炎よりも熱く』ほか。

支えていたスケールの大きな経済人がいなくなりました。そこで、マーケットを作り立たせるために、本来売り物ではない「作法」を持ち出したんです。お茶を教えるというのは、本当は生易しいことではなくて、教える側に高度な教養や人間性が求められます。でも、そういう先生には実際なかなか出会えない。その結果、今では方法論である「作法」を学ぶことがお茶の目的だ、とすり替わっている。完全に手段の目的化ですね。

SFCでも、大学は方法論や社会に出て行くためのツールを学ぶところだと思っている学生が多いようだけれど、僕は違うと思います。大学時代は「こんなことして何になるねん!」と思うようなことに真剣に取り組む時期。方法論は、無駄なことを学ぶ中で結果的に備わるもの。それに、役に立たないことを学ぶことが、唯一学生にのみ許された特権だと思います。役に立つからと、必要に駆られて取得したことは、その場限りで消費されていくから、自分の中であまり溜まらないですね。SFC卒業後に文学部へ学士編入したんだけど、そういう意味で文学部というのは役に立たないことを学ぶ最たる場所だと思います。でも、自分の中に常に抱えている得体の知れない深く濃いものが溜まっていく気はしましたね。お茶もやっているからといってすぐにどうにかなるものではないけれど、人間性を深められる。教養ってそういうものだと思います。

### 遠回りをする勇気

手段を目的と履き違えて学生生活を送る人は、景色のない近道を通っていると例えられるかも。高度成長時代に日本人は、それまでの日本の教養や文化を全部脱ぎ捨てて頂上に駆け上つてみたら何も残らなかった。だから、我々の世代に必要なのは、親世代が荷物だと思って下ろしたものを、改めてかつぐことですね。そのために一番大事なのは人間性と感性。知識や教養が乏しくても勘が良ければずっと飲み込めるから、感覚を常に研ぎ澄ませること。結局そこにつきるような気がしますね。

# 【SFCの授業から見る教養】

大学生の知の基盤は、やはり日々の講義に依る  
たちは教養に関して、一体どのような意識を持た  
「思知科学」の担当教員である石崎俊環境情報

小熊英一 総合企画

小熊英二 総合企画

そのものを究めたいという学生にのみ門戸が開かれているのではない。

その両方のバランスが大事です。その時、タコツボに入っていては多くの学生に目が届かなくなります。実は、どの分野でもそうだと思いますが、専門家が専門家ではない人たちに対しても専門分野を分かりやすく話すというのはすごく大変。たとえば学会での発表であれば、参加者は専

人間やその他の生物の認知機構を研究する、認知科学。この複雑怪奇でや

學

ルとしてITは不可欠だ。つまり認知科学とは優れて学際的、すなわちSFC的な学問フィールドであると言える。

科  
不  
科

講義としての「認知科学」は、SFCでは環境情報系汎用科目に位置づけられている。この講義は、どのような企みによって設計されているのだろう。講義担当者である石崎俊環境情報学部教授は言う。

「SFCのカリキュラムにおける汎用科目とは、いわば見取図のようなもの。この見取図を三つほど並べると、それは

この問題は、なんとかやるのではなく見取図として意味を持たせなければならぬと、

いがちですから。受講した学生に対し、認知科学という世界の中に、あるいは隣接して多様に広がる学問的テーマへの水先案内の役割を果たしたり、生きる上で必要である認知科学的なものの見方を養成できたりすれば、それで成功だと思います」。

刀劍說

「認知科学」は、認知科学という学問

■ 認知科学

この授業では、認知科学の全般を紹介するが、多くの分野の中でも特に「言語」に重点をおいて扱っている。講義では、日本が高いレベルを誇るコンピュータによる言語理解や言語処理システムや、認知言語・認知意味論、さらに認知心理学の一環として言語発達の研究などを、詳しく解説。また、単語を刺激語として連想した言葉をコンピュータでモデル化し、人間の記憶と理解のモデルを構築する連想実験も実施している。

## □ 担当教員

石崎 俊(いしざき・しゅん)

環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員。専門は認知科学、自然言語論、音声情報論、画像情報論、機械翻訳。また、認知・身体クラスターの代表を務める。著書に、『自然言語処理』(1995)など。



ほかならないからだ

汎用科目に盛り込まれた企みは、教養という名目で漫然と知識を与えるのではなく、学生それぞれの専門分野を見通すためのベースペクトライブとして教養を与えるようと明確に意識していることだ。また、低学年のうちの受講が推奨されてはいるものの、必ずしも高学年を拒むものではないことも挑戦的である。それは、教養課程と専門課程が厳然と区分されてい るような旧来型のカリキュラムに底流する積み上げ式の知というあり方の否定にほかならないからだ。

ちなみに、いま述べたような旧来型のカリキュラムでは、それぞれの課程を担当する教員が分かれていることが多い。つまり、専門課程の教員が教養課程で教えることはほとんどない。その逆もまた然り。しかし、SFCはそうでない。

「私自身、汎用科目も専門科目も担当しているし、大学院でも教えています。当たり前のようですが、実はこのこともSFCの特色のひとつなのかもしませんね。」

現代社会を考える上で、過去と私たちの関係は避けて通れない。小熊英二総合政策学部助教授が担当する「近代史」「近代思想」の講義は、歴史と思想を通して現代を考えるきっかけを提示する汎用科目だ。「近代史」では日本の「近代化」を例として近代国家の誕生を、「近代思想」では古代から現代の古典まで、政治思想の変遷を小熊助教授独自の体系的分析に基づいて紹介している。歴史や古典を通して過去の思想やその社会的背景を知ることによって、自分では思いつかなかつた視点や考え方をみつけ、世の中を新鮮な角度で見直すことができるはずだ。

小熊助教授は、自分の講義をサービス徹底して学生のためになる授業、「興味をもてる」授業をめざしているという意味だ。学生のニーズなど考えるより、自分の研究分野だけをそのまま語ったほうが簡単だろう。しかし、「教育と研究は切り離している」と小熊助教授はいう。なぜなら、「自分の研究しているようなことに万人が興味を持つとは思わないから」だ。「近代史」「近代思想」の授業では、どんな学生でも理解でき、興味を持てるような形で、歴史や古典から有益かつ汎用的な視点を学生に伝えようとしているのだ。

教養について、小熊助教授は2つの機能を指摘する。ひとつは、上流社会へ仲間入りをするために必要な、知識人の常識としての教養である。例えば大学生とういう存在が限られたエリートだった戦前では、デカルト・カント・ショーペンハウэрの古典を読んでいなければ大学生失格だと言っていた。そういう雰囲気は日本の大学進学率が10%未満

## 相想

業、学生は客と考えているという。それは、徹底して学生のためになる授業、「興味をもてる」授業をめざしているという意味だ。学生のニーズなど考えるより、自分の研究分野だけをそのまま語ったほうが簡単だろう。しかし、「教育と研究は切り離している」と小熊助教授はいう。なぜなら、「自分の研究しているようなことに万人が興味を持つとは思わないから」だ。

「近代史」「近代思想」の授業では、どんな学生でも理解でき、興味を持てるような形で、歴史や古典から有益かつ汎用的な視点を学生に伝えようとしているのだ。教養について、小熊助教授は2つの機能を指摘する。ひとつは、上流社会へ仲間入りをするために必要な、知識人の常識としての教養である。例えば大学生とういう存在が限られたエリートだった戦前では、デカルト・カント・ショーペンハウэрの古典を読んでいなければ大学生失格だと言っていた。そういう雰囲気は日本の大学進学率が10%未満

の関係は避けて通れない。小熊英二総合政策学部助教授が担当する「近代史」「近代思想」の講義は、歴史と思想を通して現代を考えるきっかけを提示する汎用科目だ。「近代史」では日本の「近代化」を例として近代国家の誕生を、「近代思想」では古代から現代の古典まで、政治思想の変遷を小熊助教授独自の体系的分析に基づいて紹介している。歴史や古典を通して過去の思想やその社会的背景を知ることによって、自分では思いつかなかつた視点や考え方をみつけ、世の中を新鮮な角度で見直すことができるはずだ。

現代社会を考える上で、過去と私たちの関係は避けて通れない。小熊英二総合政策学部助教授が担当する「近代史」「近代思想」の講義は、歴史と思想を通して現代を考えるきっかけを提示する汎用科目だ。「近代史」では日本の「近代化」を例として近代国家の誕生を、「近代思想」では古代から現代の古典まで、政治思想の変遷を小熊助教授独自の体系的分析に基づいて紹介している。歴史や古典を通して過去の思想やその社会的背景を知ることによって、自分では思いつかなかつた視点や考え方をみつけ、世の中を新鮮な角度で見直すことができるはずだ。

### ■近代思想

古代ギリシアからはじまり、現在にいたる政治思想の流れを把握することがこの授業の目標だ。現代の固定的な「常識」からは意表をつくような「解答」の数々を過去の思想家たちから学ぶことで、次の時代のありようを考えうえでの基礎を築くことができる。

### □担当教員（秋学期）

小熊 英二（おぐま・えいじ）

総合政策学部助教授兼政策・メディア研究科委員。専門は歴史社会学。現在は、主に戦後日本におけるナショナリズムについての研究を進めている。近著に、『<日本人>の境界』（1998）、『<民主>と<爱国>』（2002）など。

最近は社会では役に立たなそうな教養よりも「実学」を学ぼうとする学生も少なくない。しかし、学生が社会人のやることをそのまま真似しようとする、表面的で浅はかな自称「実学」を、小熊助教授は批判する。本来の実学とは、単純な社会の眞似ではなく、学問による社会への貢献をめざすより深い理念である。「20歳前後だと、会社ごっことか人事ごっこやりたいと思うけど、そんなことは実際には会社に入れば嫌でもやらされること。せっかくのモラトリアムの期間なのだから、僕は大学でしか勉強できないことを勉強したほうがいいと思う。逆に言えば、会社に行けば無理矢理やらされることを今からやる必要があるのか？」。目先の社会で流行っている、5年後には無価値になるかもしれないことを学ぶ以上のことだが、大学でこそできるはずだ。激動の歴史を生き抜いてきた、普遍的な智恵を勉強する意義はここにある。

最後に大学で何を勉強すればいいか迷っている学生にメッセージをいただいた。「やりたいことがある人は、やりたいことなんてやればいい。でも、やりたいことなんて18歳やそこらでは、大抵わかつていらないと思う。いろんなことを試し、さまざま考え方を知れば、そこで生まれる出会いの中から自分の進む道が見えてくるのではないか。」



特集前半では、学生の視点から大学内の教養のあり方を探った。  
後半では、大学で教養を身につける意味について考えたい。

# 教養は思考のバツクボーン

企業人に聞く！

森 靖孝（株式会社資生堂常勤顧問）

## 「生きる意味」を考える力

私はまだまだ勉強不足ですので、教養について語る資格はないと思っていますが、企業人として、長年の経験から学んだことをお話しします。

人はみな、自分の行動基準を持つて生きています。何かを判断し、決定する芯棒となるような基準を持っているんですね。その土台となるのは、幅広い知識や経験、つまり教養です。この行動基準は、短期間で完成するものではありません。成人するに従つて、だんだんとしつかりとしたものになっていきます。そして、基準に従つた行動の積み重ねが、人の生き方を作り上げていくのです。

ところが、その基準 자체がいい加減だつたり曖昧だつたりすると、その人の判

断もいい加減で曖昧になってしまいます。そうなると、その人の生き方そのものが揺らいでしまいます。何のために生きていたのだろう、ということになってしまふのです。

理想を持ち続けながらの現実対応と、理想のない現実対応の違いです。

## 教養の必要性を痛感するとき

特に現代は、昔に比べて日々受信する情報量が膨大になっていますよね。色々な情報が四方八方から洪水のように入ります。自分にとって本当に必要な情報がつかみづらくなっているのですね。そこで情報を取り扱っていくには、自分で基準を持たなければなりません。

そのためには、問題意識を普段からきちんどつ持つておくことが大切です。自分の問題意識に従つて、自分が何を

こと。これが、自分の行動基準や軸を作れる指針となります。教養とは、自分が何のために生きていくのかという「生きる意味」を考える力なのです。

◎卒業後、教養はどんな役割を果たすのだろうか？  
◎管理職としての経験が豊富な企業人で、メンター三田会副会長でもある、株式会社資生堂常勤顧問森靖孝氏が教養を思索する。



森 靖孝 (もり・やすたか)

株式会社資生堂常勤顧問。SFCフォーラム会員。  
1964年慶應義塾大学工学部卒業後、資生堂へ入社。  
商品開発部国際商品課長、国際戦略室長、取締役  
国際事業部長、取締役事業開発部長、執行役員常務を経て、2004年6月より現職。

メンター制度URL:  
<http://www.siv.ne.jp/networking/mentor.html>

養は欠かせない資質なのです。私が特にその必要性を痛感したのは、海外で仕事をしたときですね。外国のビジネス界トップには教養人が多いと感じました。昼間は仕事の話だけですから角をつき合わせることがあります、夕食時になると仕事にはほとんど触れず、文化や芸術について語り合うのです。日本の文化や歴史はもちろん、外国の歴史や文化に関する知識も身につけておくと有利になります。

国際的な場面でも、そうした素養があれば、共通の話題を通じて個人的に理解してお話しすることができます。そうすると、翌日のミーティングでもスタンスが全然違ってくるのですね。

らず、自分自身の意見を主張すべき機会はたくさんありますよね。そうした場面では、自分の考え方を明確に、また論理的に表現することが重要になります。背景にしつかりとした理念や理論構築がなければ、説得力のある話にはなりません。例えば、入社試験で直接的に「教養があるか」と問われるわけではありませんが、自分が会社に入つてやりたいことの説明や、自分自身を表現することが求められます。

説得力のある話ができる人、見識が高い人というのは、教養を身に付けているものなのです。教養は理念を充実させ表現力を確固たるものにするバックボーンになります。

同時に、優れた感性が必要なのです。才質を見抜く目を養わなければ、本当の問題点がどこにあるのかわからないのです。しかし、感性とは一晩勉強すれば身にいくというものではありません。普段から感性を磨く努力をする必要があるのです。形而上の世界で哲学や芸術に触れ、それについて深く考えることは物事の本質や人間心理を見抜く訓練になります。哲学や芸術一般への素養を深めることで優れた感性を培う一助となるのです。しかし、社会人になると忙しくなりますから、なかなかそうした時間は作れません。学生のうちに、いいもの、美しいものに触れる機会ができるだけ作ってほしいですね。美術館で良い作品に触れたり、流の演奏を聴いたり、名作といわれる本を読むことを、「訓練」としてやっていく。そういった努力が必要です。

**形而下の世界へ入る前に**

は、話題が仕事に関係することばかりなのです。社会情勢の話題を除けば、せりふくらいのものでしようか。国際化が進んでいくにつれて、グローバルに通用する人材が求められるようになります。卒業後、国際舞台で活躍することができます。広く文化的な知識を持つことはもちろん、相手の文化的背景を理解する能力を身につけることも教養と言えると思

また、ビジネスに直結しなくとも、教養は社会人として活動する上で非常に重要な役割を担っています。社内外に関わる

人間には、知識や技術が必要であると

企業人に聞く！

# 教養は知の栄養素

西河 敦

(日本生命保険相互会社融資総務部長)

## 教養の蓄積がものを言う

よく「教養がある」とか「ない」とか言うけれど、その違いはどんなものなのでしょう。例えば、落語を聴いていると、江戸時代の話に「八つさん・熊さん」という登場人物がよく出でますよね。たいたいは畠職人や大工などの職人です。二人がとんちんかんな言い争いをしていふると、そこへご隠居が出てきて「いやあ、それはそうじゃないよ」と説明して、場を上手く收めてしまします。ご隠居っていふのは生活に余裕があつて、小さいころから芝居を観たり美味しいものを食べたりしているわけで、その日暮らしの八つさん・熊さんより教養がありますよね。ところが、その長屋に訳ありの侍が住み着く。浪人となつて金張り職人かなにか

始めるわけですが、この人はご隠居よりもっと教養がある可能性が高いですね。侍ということはちゃんととした藩に勤めていた経歴があるはずです。ということでしょう。だから何年たつてもやつていては、小さいころから論語を読んだり、歴史や宗教について学んだり、つまり学問をやつている。さらに、藩という組織の中にいたですから、宮仕えの難しさを知つてゐるはずです。

八つさん・熊さんは、その日暮らしではありますが「社会人」ですよね。例えば二人が初めて奉公に出されたときは、いわゆる新入社員の時期にあたります。親方に仕事を教わつて、畠や家を作るのを上手く收めてしまします。ご隠居っていふのは生活に余裕があつて、小さいころから芝居を観たり美味しいものを食べたりしているわけで、その日暮らしの八つさん・熊さんより教養がありますよね。

ところが、その長屋に訳ありの侍が住み着く。浪人となつて金張り職人かなにか

◎企業に就職し、いざ仕事を始めるとなつたときに、教養は具体的にどう必要とされるのだろうか？ 融資のプロである日本生命保険相互会社融資総務部長西河敦氏が、「会社での仕事の中でも活きる教養」について語る。

## 教養は大切な「栄養素」



西河 敦（にしかわ・あつし）

日本生命保険相互会社融資総務部長、兼資本市場営業室長。SFCフォーラム会員。1975年慶應義塾大学商学部卒業後、日本生命へ入社。年金運用業務室長、変額保険運用部長、年金運用部長、国際投資部長、資金証券部長を経て2003年3月より現職。

今、私は融資の仕事を担当しています。お金を貸すということは、「ちゃんと返してくれそうだな」という信頼があるからできることです。例えばA社に10億貸すかどうか判断する、これを与信行為をするには、まず会社の業績や財務体力を見せてもらう必要があります。与信行為をするには、なぜ会社の業績や財務体力を見せてもらいます。計算書を読み取る方法は、簿記なんかを大学でやれば習得できます。でも、それだけでは判断できません。社長さんの人柄は？ 大きなことばかり言っているけど、本当に時代を読んで動いているか？ 競争相手と自分の企業の違いを冷静に判断できているか？ そういうことを含めて考えて、初めて与信行為になるんです。それらを判断するには、そこの業界動向や先端技術を知っている必要がありますね。例えば発光ダイオードの仕組みに関する話が出て、「なんですかそれ」なんて反応では話になりませんね。雑学に近いことでも、普段からそういう知識を入れておくことは大切です。それで初めて、「この技術は、貴社とB社ではどう違うのがあるんですか？」というような質問ができるわけです。

もちろん、そういうことを判断する専門家というのは別にいますから、すべてに関してプロ並みの知識が必要というわけではありません。でも自分が最終判断を下さなければならぬ立場だとしたら、と考えてみてください。

更に、「自分の会社がいかに儲かるか」という視点だけで与信行為はできません。

### 本 当の教養は、信頼につながる

そういう「栄養素」、つまり教養がある人というのは、やはり一緒に働きたいと思われますね。具体的に言うと、まず、知情意のバランスがいい人。知恵の知、情けの情、意志の意で「知情意」です。頭でつかちで知識だけがあるのではなく、人間味があり、なおかつ意志や意欲がしつかりある。つまり、人として偏りがないということです。

次に考えられるのは、人間にに対する洞察が深い人。「人間」をよく分かっているというのは何より大切なことです。世の中は人間でできていますから、仕事だけを要するに對人関係でできているものであります。人間が作って、人間が買って、人間が使つて、人間が喜ぶ。だから、營業するのに「人間を知っている」ことが必要だとよく言われますが、どんな仕事をするということはその会社を大きくすることに繋がりますから、ただ「金利が稼げればいい」という考えでは駄目で、倫理観や社会通念、常識が当然必要です。

そういうものをすべて会社に入つてから教えてもらえるわけではないので、それまで自分の培つてきたものが頼りにならないんです。いわゆる教養、私は「自分が生きている時代や社会を広く見渡して、一人の人間として、あるべき方向に自分を向上させるために必要な栄養素」だと思っていますが、その栄養素をどれだけ体系的に身に付けているかが「できる人」と「できない人」の分かれ目になるのではないかでしょうか。

つまり、自分を遠くから眺められるということです。これは、歌舞伎で有名な世阿弥の「花鏡」に出てくる言葉なんですが、「観客が自分をどう見ているか」を役者自身が見えている必要があると言うんですね。当事者である立場から少し離れて、ついつい主観的に見てしまうことを客観的にみる。これは「自分」に関してだけではなく、会社についても同じです。自分の会社、例えば「うちの会社は今この世の中でどういう位置にいるんだろう？」どういうイメージを持たれているんだろう？」ということを考えられる力が欲しいですね。実際に仕事をしていく中で、「これは絶対にAだ」と思っても「ちよつと待てよ、Bでも悪くはないし、こういう要素が入るとCだな」というように、全体を一段上から見下ろすような作業は確実に必要になります。難しい判断になればなるほど離見の見は活きてきます。

やはり教養がある、つまりこういう力が發揮できる人は信頼できますし、これから社会で頑張つていけると思いますよ。

# 【対談】 あるべき教養教育をプロトタイピングする



## 古くて新しい課題

トを作り上げたりすることなどを通して、この「筋縄ではいかない課題に取り組んでいます。教養教育について考えるためには当然、教養とは何かという根本課題について考える必要があるわけですが、センターが開設されたのが2002年であることからも、この課題がいかに現代性を有するかが分かると思います。もちろん、開設までに問題意識の長年の積み重ねがあったことは言うまでもありません。

井庭 古くて新しい課題、いまだ決着のつかない課題だというわけですね。教養教育を21世紀において意味あるものに脱皮させることが求められています。私はSFCの卒業生であり、SFCの教員でもあるのですが、この課題についてはSFCが先行している部分もあるし、そうでない部分もあります。教養研究センターの活動にもっとSFCが参加し、フィードバックをもたらし合うことが望ましいですね。

横山 ゼひそうしたいですね。この対談がそのひとつきっかけとなれば嬉しいです。

横山 まだ駆け出しながら、私は日吉キャンパスに設置されている教養研究センターの所長を2004年の10月から務めています。

井庭 教養研究センターというのはどのような機関で、具体的にはどのように動いているのですか？

横山 教養研究センターの任務を平たく説明すれば、教養教育のあるべき形を考えること。義塾内外のカリキュラムなどを研究したり、教職員や学生はもちろん外部の有識者やキャンパス周辺地域の皆様と共に「学ぶ」ことの研究やシンポジウムを行なつたり、イベン

## educate→produce

横山 何のために教養を身につけるかといえば、「ヒト」としてのみならず、「人」としてより良くより豊かに生きるために、というところに最終的には行き着くのでしょうか。今も昔もこの理想は変わらないと思います。ただ、どういうやり方でそこを目指すのかが問題でしょうね。

井庭 educateの語源の一つであるラテン語の「educere」は「外に引き出す」という意味ですね。日本語に訳された「教育」「教養」という言葉を見ると、どうも「教える」ということが強く意識されているように思いますが、本来は学生が持つているポテンシャルを引き出していくことがすなわち教育だという思想が反映された言葉だったのですね。きっとリベラルアーツという言葉にも「教える」という含みはないのでしょうか。

横山 リベラルアーツはもともと、古代から近代ヨーロッパにおいて、基礎教養とされたものでした。七自由科といつて、文法・修辞・弁証法・算術・幾何・天文・音楽から成っていたのです。これは日々の生活に実用として役立つという「商業的」なものではなく、むしろそこから自由になるためのものでした。実用的な学問も教育の一部と目されるようになつたのは19世紀に入つてからのことだつたのですね。

**井庭** これからの教育においては、いわゆる一般教養

のような形で、これが基礎であると提示された知識のセットを取り込んでいくというやり方は変わら必要があると思います。そうではなくて、本当は基礎というものはすべての物事の中に散りばめられているのだから、物事の関係性の中において吸収されていくべきではないかと。

**横山** SFCではそうした考え方のもとにカリキュラムが組まれていると思いますが、日吉や三田でも、「一般教養」という言葉はもう死語になりつつあるし、学生の間でも「般教（ばんきょう）」という言葉はあまり聞かれなくなっています。また、「文学」や「歴史」という従来の科目でも、文学や歴史のみを通史的に扱っているのではなく、それぞれの教員がその場その時で大切だと思うことを教授しているようです。

**井庭** educateに関していえば、produceというは「前方へ導く」という原義を持ちます。つまり、何らかの目的に向かって学生を内から外へ導いていくことにつながると思います。educateとproduceの語源に、少し類似する意味があることは注目に値することではないでしょうか。大学は、学生のeducateをしつかりやると同時に、produceによって研究成果などをアウトプットしなければならない。よく言われるよう、大学は車の両輪のように教育機能と研究機能とを有し、そのどちらが欠けてもいけないというわけですね。

**横山** 学生にはアウトプットする楽しみをもつと学んでほしいですね。やっぱりペーパーテストの点数で評価されても嬉しいものじゃないでしょ。学んだものを消化した上で、さらにオリジナルなものとしてアウトプットできるというところまで持つていかなければ、本当の成果にはならないと思うのです。それをを目指すなら、当然レクチャーというのは大切ですが、それをサポートする形で演習が、しかもできるだけ少人数形式の演習がセットで行なわれるようになつていかなければ

◎進取の気性に富む「実験」キャンパスとしてのSFCは、教養教育改革においても、慶應義塾全体に有益なフィードバックをもたらすだろう。そのとき、SFCの方法と実績を全塾的な視野から相対化して分析することが、「実験」のより大きな成果に資するにちがいない。

◎横山千晶慶應義塾大学教養研究センター所長と、SFCに学生として在学していた頃から「実験」に参加してきた井庭崇総合政策学部専任講師による対談を通して、あ

### るべき教養教育の形を探る。

ればと思います。

**井庭** インプットとアウトプットのバランスですね。すべてがアウトプット志向だと厳しいですから。

**横山** 何もないところからアウトプットはできないですよね。

**井庭** インプットするに値するものは世の中にたくさんある。だから、戦略性のないまま闇雲にインプットしていたら、アウトプットを出すまでに膨大な時間がかかるってしまいます。そうではなくて、あるアウトプットから逆算して、それを出すために必要なインプットを探す能力がとても重要です。たとえばSFCのカリキュラムでいえば、「研究プロジェクトでこういうアウトプットを出すために、この授業との授業を取ろう」というような戦略ですね。

## 大学という「遊び」の場

**井庭** 大学で教えるにあたって私は、「自分で見つける」「作ってみて分かる」というやり方を大切にしていて、それができるような場作りを意識しています。たとえば、グルーブワークをやつたり、コンピュータ・シミュレーションを作つてみたり。私は「コラボレーション技術」という講義を担当しているのですが、この講



私たちも小さい頃からごっこ遊びをして、想像力を働かしていましたよね。その遊びが、先に待つ実社会の問題を解決するための「シミュレーション」になっているのです。そういうごっこ遊びの場を、学生とともにもう一度作り出すことが、大学の教養教育の役割のひとつなのかなあという気がしています。

**井庭** いわゆる経験のプロトタイプですね。大学

というのは社会からある程度区切られた場ですから、その枠内での行為は外に影響しにくい。そういう場で思い切って何かを実践してみて、失敗したら失敗したでそれを糧にしつつまた前進すればいい。これを実社会に出てからやろうとしても大変ですよ。失敗しまして、では済まされないことも多いし、諸々の社会情勢がますます人に失敗することを許さなくなってきたいるわけですから。

## 学びたい側が組んだギルド

**横山** 教養研究センターの主導により、「スタディ・スキルズ（注）」という実験授業を日吉キャンパスで開講しています。知的な能力を高め、それを活用して調査・研究を行ない、自らの考えでこれをまとめ、その結果を発表・発信するという一連のアカデミックなスキルを養成しようというものです。3～5名の教員に

対して受講者を20名に絞り、学生4～5名で「グループを作らせる」という枠組みになっています。

ここで学ぶプロセスには一貫したポリシーが反映されていて、それはまず第一に学生が学生同士で問題を解決するということなんですね。教員はあくまでサポート役に回る。たとえば、学生がつまずいた時に「こういうやり方や本があるよ」と手を差し伸べる。また学生は、たとえば環境をテーマにしたら環境問題という枠内でしか考えられなくなるきらいがあるので、時には多面的・複眼的な視点からアドバイスを投げかけることも教員の役割でしょう。

**井庭** SFC出身の私としては、それは馴染みのあるやり方ですね。教室というものは教員対学生という空間ではないということを最初から明確にしておく。するとそこで展開される学びというものが、実は教室という特定の空間に必ずしも縛られる必要のないことが分かってきます。学生は教室を「飛び出して」いくことができます。その時に問題になるのは、教室の他に学生が自由にできる場があまりにも少ないということ。

SFCでも学生が窮屈そうに集まっているのをよく目にしますね。この問題に対応することが大学のひとつの課題でしょう。しかし同時に、そうした制約があつてもなお円滑にコラボレーションをするためにはどうす

ればいいのかを考えたいとも思っています。それが私の最近の教育上のテーマなのです。

**横山** この「スタディ・スキルズ」という授業を通して学生が自発的に新しい研究の場を見つけたのが、私は嬉しかった。彼ら・彼女らのうちの同志が「教養教育研究会」という場を自分たちで作り出したのです。今までには教員から何でも教えられていたけれども、今度は自分たちで学びたいことを提言していくこうとしている。

## 井庭 崇（いば・たかし）

総合政策学部専任講師。SFC4期生。環境情報学部卒業のち、政策・メディア研究科の修士・博士課程を修了。「モテリング・シミュレーション入門」「コラボレーション技法」などの科目を担当。



**井庭** 私が修士課程1年の時、1997年に、「複雑系勉強会」というのを開いていました。学生の学生による学生のための勉強会だったのですが、90人も集まってしまった。一週間勉強してきたことを順番にレクチャーレンジ、それを受けてメンバー間で議論するということをやつていました。その成果をまとめた「複雑系入門」という本は、今は私の授業の教科書になっています。私はそういう体験をベースに持っているので、今の学生にもそういうことを推奨しているつもりです。

SFCを創った一人である孫福さん（故孫福弘総合政策学部教授（当時）のこと）の言葉に「大学には二つの起源がある。教える側が組んだギルドと、学びたい側が組んだギルドだ」というのがあります。しかし従来の日本の大学は、教える側が組んだギルドでしかなかつたわけです。

**横山** 学びたい者が教員を指名できる「研究プロジェクト」が、2005年度から経済学部のカリキュラムの中で始まります。まず学生が学びたいことを主体的に考え、直接教員に対して「こういうことがやりたいから、先生お願いします！」と教員を指名すると、同意した教員がアドバイザーとしてつくという形式です。指名する学生は個人でも、グループでもいい。グループの場合は、経済学部の学生が入っていれば他学部の学生も参加できます。これはまさに「学びたい側が組んだギルド」でしょう。教える側も壁を崩すべきなん

ですよ。まして「半学半教」を標榜する慶應義塾なら尚更です。

## 古典には触れなければならないか

— 最近は「21世紀の教養」という名目で実用的な教養学を作ろうとする大学が増えてきています。そこではたとえば古典文学などが「無用なもの」として切り捨てられてしまう傾向があるようです。しかし「21世紀の教養」という時に、果たして実用的な学問だけを求めるのが正しいといえるでしょうか。

横山 私自身の経験からお話ししましょう。過去4年間にわたつて高校生と一緒に夏休みにシェイクスピア劇を作るという仕事に関わったことがあります。たとえば『ロミオとジュリエット』を原語でやるという試みですが、これは英語学習の面からいえば、実用的ではないのですね。シェイクスピア時代の英語は、今の英語とは文法から言葉から大きく違うでしょう。そこで受験を第一に考える高校は、かえって英語の勉強に差し障りがあるからという理由で生徒に参加させることを渋りました。こうして集まってきた参加者には、もちろんシェイクスピア劇をやつてみたいという積極的な生徒たちもいましたが、いわゆる登校拒否の生徒や問題を起こして停学処分になつた生徒で、教師の推薦を受けてしぶしぶ参加してきた子たちもたくさんいました。

ところが面白いことに、映画を観せたり日本語訳を読ませたりして、それから自分がいちばん共感できる役を選んでごらんというと、主人公であるロミオやジユリエットではなく、途中で死んでしまう役や乳母、といった人物を選ぶ生徒が多い。どうしてかと聞くと、そういうキャラクターにものすごく共感するというのです。傷ついている部分・優しい部分を敏感に感受しているのです。彼ら・彼女らにとつては、これが古典であろうが、英語で書かれていようが関係ないわけで

す。今も昔も人間は、同じようなことで同じように悩み苦しんできた。そうした人間の営みの集積が古典なのです。古典の凄さってここじゃないかと思います。未来志向の「歴史は今始まるのだ」という考え方はずごく大切だと思うけれど、未来を考えることは過去を考えることでもあります。そして過去に生きた人びとは、同じく未来を考えていたわけです。こういう螺旋形の思考が絶対に必要。また、過去の人びとと現在の人びとが考えることには当然ズレが生じます。そのズレの部分も含めて、あるいはそれを修正しながら、過去の人びとの考えを次の世代に引き継いでいく必要がありますよね。

井庭 古典には現在性がある、というのは面白いですね。だからこそ今に至るまで古典は古典として残り続けてきた。人間つて本質的部分では本当に変わらない。それだからこそ、やはり古典というものは、経験すべきものなんでしょうね。

慶應義塾大学教養研究センター所長（二代目）。法学部教授。専攻領域は、「19世紀イギリス文學および文化」、「英語」「地域文化論」などの科目を担当。

## 横山千晶

（よこやま・ちあき）



(注) スタディ・スキルズ 2005年度より「アカデミック・スキルズ」に名称が変わる。また、従来は経済学部では自由科目扱いであったが卒業単位として認定されるようになつたり、コマ数が増加されたりと、高まる学生のニーズに対応する変更が施される予定。

# 人生を、機嫌よく楽しむ教養

「教養とは何か」という議論に、未だ決着はついていない。では、社会批評家はどういう教養を考えているのだろうか。

福田和也環境情報学部教授に、大学の教養教育に対する提案、そして教養の発祥とそこからみる教養の本質について語つてもらった。

近代的個人になるはどうしたらいか、と

ドイツの知識人たちは非常に悩んだんです。

そこで、「教養 (bildung(s))」（注1）という言葉が掲げられました。「教養ある個人になることで近代的な市民になる」という概念を知識人たちが持ち出しました。その

革命なしで近代的個人になる方法

まず、オーソドックスな西洋思想史で教養についての思维を省みてみましょうか。17世紀後半に、西洋先進国であったイギリスとフランスでは市民革命が起きましたね。イギリスではピエーリタン（清教徒）革命、フランスではフランス革命。しかし同じ西洋先進国でありながら、ドイツでは革命が起こりませんでした。革命を経ずに市民社会を作るには、

代表的存在であったゲーテは、「ヴィルヘルム・マイスターの修行時代」で教養の定義をしています。簡単に約すなら、「自分が自分になるために必要な経験を教養」ということになるのでしょうか。つまり、有用性なんかとは一切関係がないんですね。社会や経済とい

うのではなく、自己目的、つまり自分が自分になること以外の何の目的ももたない探求が教養だ、とゲーテは言い切っているわけです。

もう一つ教養の有名な定義として、若き古典学者時代の二一チエが下した、「教養とは、まつたく違う他者を理解するために必要なものだ」というのが挙げられます。ドイツのギムナジウム（注2）の教育方針ですね。ギムナジウムでは、ラテン語とギリシャ語と数学を中心に入れるんです。19世紀頃に

用などという言葉は、教育に似合わない、と。

なれば、既にラテン語やギリシャ語は全く実用性がありませんでした。でも、例えば「

チエの講義録を読むと、教師がラテン語で喋って生徒はギリシャ語で書き取りをする、な

んというとんでもなく高度な授業を高校生

レベルで毎日やついている。なぜそんな授業をす

るのかというと、自分にとって全く実用性も

類縁もない古代の言葉や思想にどっぷり浸か

ることで、現代社会と全く関係のない文化や社会に関する感性、つまり理解できない

他者と対話する困難と努力を通しての自己

確認の貴重さを涵養したのです。つまり、

他者を理解しようとする努力のなかから自

己をみつけるということですね。それが教養

教育だんだとです。

こういう教育というのは、有用性にたいする懷疑なしには出来ない。トマス・マシニーが存知だと思いますが、彼は最後の教養小説とされる『魔の山』の作者です——『ブテンブローゲ家の人々』のなかで、19世紀にドイツでもギムナジウム教育への異論が出てきて、実用学校が設置されるのですが、そのことに憤慨する老人たちが出てきます。実

こうした実用への傾きがドイツ現代史をの

ような方向に導いた、という歴史家は少なく

ない。

イギリスでも同じですね。ケンブリッジや

オックスフォードでは、長いこと、数学とギリ

シャ文学だけが必須であり、その試験で序

列が決まっていた。ギリシャ文学と数学で番

をとった人間が、ピットやグラッドストーンな

どのように大英帝国の最盛期を支えてきた

わけです。ケインズぐらいまでの世代はみんなそうだったわけですし、今でもイギリスや

アメリカのエッセンスの部分はそういう感性を

残している。ワシントンに行くと、街を見た

だけで分かるでしょう。あんなにラテン古典

から政治を見ている国はない。ネオコーンを

馬鹿にするのはいいけれど、彼らがローマ史

にどれだけ通曉しているか。古典教養をもつ

た人間が、高度の先端的知識を学ぶといつ

のが、彼らの理想でしょう。

日本でも、明治の第二世代ぐらいまでは、漢籍の教養が基礎になっていた。これも教養教育ですね。論語の素読なんていらしたらず、役に立たないんです、日本には科學ないんだから。でも、だからこそ彼らは、西洋

## インタビュー

# 福田和也 環境情報学部教授

近代の技術にたいして、身を屈すことなく切り結ぶことが出来た。若槻礼次郎が、

外交官の試験を受けた時、問題は全部漢文だったといいます。ただ、合格すれば後は英語づけ。漢文は禁止。こういう事が、どういう意味をもついたのか、もう一度よく検討してみる必要があると思います。エリート教育として、格段に成功していたわけですから、現在とは比較にならないくらい。

ば、話にならないと思います。

## 「必要最低限」で終わらせない深み

教養教育の王道は古典だと思いますよ。大学で教養教育をやるなら、ギリシャ語・ラテン語・漢文が一番いい。そもそもない、ということかもしれないけれど、それが理想だということは弁えておくべきだとと思う。これから「教養とは何か」という議論をもつともっとする必要があるんですよ。偉い先生が宣言した間違えのいいパッケージに乗つたて、教養に対する共通了解ができていることにはなりませんよね。少なくとも実用性とどう切りあうのか、ある程度の乖離を覚悟できることか、ということをしっかりと議論しなけれ

それは教養的経験と言つていいと思います。それは「修行」ですから。でもそれは大学で教えられない。それだけ映画を見続けら

れるのも才能ですかね。もっと違うスタイルが必要でしょう。「知識を得るテクニック」なんぞ、ある意味どうでもいいんです。気持ちがあればなんとかなるけど、志のないひとはどうしようもない。なによりも好奇心で

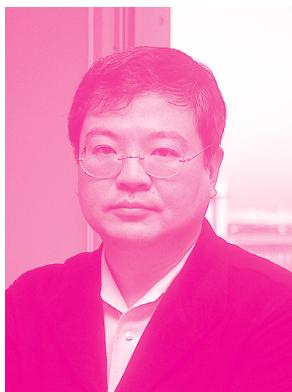
されよ。好奇心と何かを、実利と関係なく深めていき、それに喜びを見出せるといつこと。この喜びが教養へのパスポートなんですよ。

そうした喜びの片鱗を味わつてもらうこと、非有用性の形づくる世界の深み、勝つた負けた、役に立った、立たないという功利性から離れた世界の深みを味わう、その喜びを味わつてもらうのが、教養教育の本義だと思う。その場所で他者に接し、自分と出会うこと。

それでも、それができたからって、何でもないわけです。そんなことで金は稼げないし、誰も褒めてくれない。ただ、無償性を楽しめるのが、「本当の楽しみ」なんですよ。本当に機嫌よく生きている人には、そういうもの

(注1) Bildung 生成、育成。  
(注2) ギムナジウム ドイツの伝統的な中等学校。  
元来は、古典語・古典的教養を重視し、大学に接続する指導階層のための学校。

もちろん、SFCの学生にも本当にたくさんの映画を観ている人やちゃんと音楽を聞いている人はいますし、そういう人は「教養がある」、すくなくとも教養への第一歩を踏み出していると思いますね。いくらモーツアルトに詳しくても、ブライアン・ウイルソンを知らないければ教養人といえない。そういう難しさが現在には、たしかにある。毎年200本くらいの映画を10年も観たならば、



福田和也 (ふくだ かずや)

環境情報学部教授。慶應義塾大学文学部仏文科卒業、同大学院文学研究科仏文学専攻修士課程修了。専攻は、文芸批評、社会批評など。「現代思想」、「サブカルチャー論」などの科目を担当。

# When I was young



33歳のとき

A handwritten signature in cursive script, reading "Lynn Thesmeyer".

あの教壇で、魅力のある講義をしている教員は、どんな人なのだろう。

学生が教員と接触する機会は、なかなかない。

しかし、そんな教員にも若かりし頃、学生だった時代があった。

どのような学生時代を過ごし、その後の人生にどのような影響を与えたのか。

この連載では、学生時代の体験を中心に、教員たちの人生のターニングポイントを探る。

連載第14回目の今回は、ティースマイヤ・リン 環境情報学部教授に話を聞いた。

## 東アジアとの出会い

漢字の書き方による意味の構成をはじめ  
て知ったのは中学3年生のときでした。世界  
史の先生が日本語を話せる方で、漢字の  
書き方などを説明してくれました。例えば、  
「國」という字の部首とその意味などを説明  
してくれました。以前から偏や旁に意味が  
あることを知ってはいましたが、そのとき  
初めてどの部首にどんな意味があるのかを  
知りました。また、中学、高校、大学でも  
アジア系の人は少なく、実際に日本語を勉  
強し始めたのは、大学院に入つて、日本語  
講座をとつたときからです。

## 近代化を学んだ大学時代

一般的にはすばらしいものだと言われて  
いた近代化の悪影響を、大学受験のときに  
知りました。入学後、近代化が経済的、社  
会的に置き去った問題という観点で勉強し  
たらたくさんの方の問題が残っていることが  
わかりました。経済成長は良いことだと思  
つても、同時に共同体の絆が薄れ、精神的、  
身体的な負担、特に農村部への負担が増え  
ました。18世紀のイギリスにおける産業革  
命は、その発端でした。当時、多くのイギ  
リス人は、近代化をしても、引き続き苦し  
い生活を送っていました。

そして今、タイやベトナムに行くと、まさ  
に発展途上なので、私たちの過去を見て、過  
渡期の社会という視点からそれらを比較する  
ことができるのです。比較して、なぜ同じよ  
うな問題が起こるのかを、考えなければいけ  
ないと思います。同じ問題が発生するのは望

ましくないと思います。これは、今の私の研究と最も密接に関わつてくる部分なのです。

### スイスで「本当の生活」

毎年夏休みに、私はスイスの小さな村でホームステイしていました。人口がたった96人！ 小さいですよね。村人は、みんな伝統的な自給自足の農民であり、消費したものを見サイクルしていたのです。そのため、普段は当たり前と思っていたゴミの存在が、その村にはありませんでした。

私は、幼い頃に両親から、昔はみんな自給自足の農民で、「本当の価値観のある生活」をしていた、と聞かされて育つてきました。そうした生活を経験するためにも、どうしてもスイスの村に行つてみたいと思いました。そのホームステイで、大学の勉強や読書からは学べないものを得たと思います。牛から乳を搾つて、牛の手入れをして……すべてが新しい経験で、実践的な勉強でした。化学物質を使わない伝統農業、消費量が生産によって決定される農業、そして必需品を生産する時間と人力への適当な市価の計算など、サステナビリティの全ての技法を教えてもらいました。

もう一つ、付け加えておきたいのはジェンダー研究のことです。私が学生だったのはちょうど、「女性学」が打ち立てられようとしていた時期でした。私の大学の2人の先生が、女性学の視点を歴史学、文学、思想史に加えようとしていました。残念ながら、当時の審査でそれは学問ではないと判断され、2人とも辞めさせられてしましました。しかし、私が大学院に進んだ頃から

現在に至るまで、学問としての女性学を確立すること、とりわけ男女の役割分担を含む問題領域をジェンダー研究として追究していくことは、私たちの世代の課題であり続けています。そして実際私は、労働力の過半数が女性であるタイとベトナムの農村部に行つたとき、その研究の実践的な有効性を確認したのでした。

### 今に繋がる学生時代の経験

私が今取り組んでいるフィールドワークは、8年前に始まりました。4人の大学院生から、東南アジアでフィールドワークをやりたいので指導教員になつてほしいと頼まれたのがきっかけです。私は、今までの近代化やジェンダーの研究を東南アジアの研究にも生かせると思い、学生と一緒に勉強していくことに決めました。そして、タイの農村部へフィールドワークに行きました。そこで不思議とスイスでの経験を思い出したのです。タイの農村部でも、自給自足の生活をしていました。そこには、何か共通点があるような気がします。それを探るのは大切なことだと思います。それは、私たちがどのようにここまで「豊か」になってきたか、つまり近代化したのかの説明にもなるはずです。スイスでの経験は、私の記憶の奥底に眠つていたのですが、タイに行つて蘇つてきたのです。

### 広い世界の中の一つの現場に参加する

スイスでの経験、そしてタイでの活動。そのすべてにおいて共通するものは、直接現地で体験することの重要さという点です。テキストで読んで勉強するのも、もちろんとても大切なことです。しかし、自分の肌で経験するのとは、やはり全然違います。学校で得る知識だけでは、私たちが暮らしている世界の現実の問題を解決することはできません。SFCの学生は恵まれていると思います。インターナショナルや、先生方

アに頼っています。タイで生産されたものの多くは日本に輸出されています。私と学生はタイで、日本向けの作物を作っている農村部でフィールドワークをしたことがあります。そこで、「日本人は、私たちの存在を知っていますか、興味がありますか？」と農民に聞かれました。それにいい答えが出せたらと思うのです。フィールドワークが始まったときには、私たちは表面的な知識はたくさん持ついても、彼らの実際の生活についてはほとんど何も知りませんでした。アジア金融危機<sup>(注)</sup>の背景にも、そうした問題があつたのです。なぜ私たちには、現地の、当事者たちの声を聞くことが難しいのか。私たちのフィールドワークのひとつの前提として、まず現地の言葉を話せることが必要だと考えています。現地の人と接してこそわかることがあるはずです。私たちは農村部の人たちと一緒に働きます。そうすることで、こうした現場でのプロジェクトの試みが成功し、周りの村へも波及していくのです。とても楽しいことです。

(注) アジア金融危機  
金融危機。東アジア全域に広がった。

1997年にタイから始まったには私たちが知らないこと、価値、見方があります。SFCの学生には、そういう広い世界に、現地の人と協力し合い、参加していつてもらいたいのです。

### ティースマイヤ・リン

環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員  
1953年生まれ。プリンストン大学にてPh. D.を取得。  
ジョージタウン大学英文学部助教授、ノートルダム大学英文学部助教授、日本女子大学文学部助教授を経て現職。専門は、Discourse Studies、ジェンダーと開発論、社会理論など。タイとベトナムを中心に、精力的にフィールドワークに取り組んでいる。SFCでは、「ジェンダーと近代」、「開発とローカリズム」などの授業を担当している。



# Communication & Network ~未来をつくる卒業生たち~ *Co-net*

たつひろ

## 第13回 森重達裕さん

読売新聞東京本社

1998年度 総合政策学部卒業



## ニュースの料理人

かつて「未来からの留学生」としてSFCで学んだ学生たちは、いま実際に未来を創り始めている。彼らはSFCで何を学び、今、何をしているのだろう？この企画では、そんな卒業生に社会での奮闘の様子を聞くとともに、今後社会へ羽ばたくSFC生へのアドバイスなどを語ってもらう。今回はSFC6期生(1998年度総合政策学部卒業)であり、読売新聞社で活躍する森重達裕さんにインタビューした。

夜討ち・朝駆けだけじゃない

「入社してからこれまでの間、どのような仕事を経験してこられたのでしょうか？」

新聞社、特に全国紙の会社になると、まずは地方支局に派遣されます。僕の場合は秋田支局が振り出しで、その後茨城に移り、五年半で四つの都市に赴任しました。具体的な仕事内容は、一年目は警察取材、いわゆる「サツ回り」で、これは誰もが通る道です。毎朝七時半ごろに県内で一番大きな警察署に足を運び、「何か事件、事故はありませんでしたか？」と副署長に聞いていました。しかも警察署は何か所もありますから、全部まわって聞かなくてはなりません。また、何か事件があれば現場へ直行し、「写真を撮り、キヤップ（注）へ報告し、原稿を書く。キヤップに「こんな原稿を載せられるか！」と怒鳴られて書き直すような、徒弟制度のなかにいました。

二年目から四年目にかけては、秋田県の横手市と茨城県の古河市の「通信部」について、その地域一帯をひとりで担当していました。どちらも小さい都市なので大きな事件はあまり起きましたでしたが、市役所の行政から刑事事件、事故、話題までありとあらゆる種類のニュースをかき集めました。

それから次の一年は、水戸市に赴任して茨城県警本部回り。捜査一課長や刑事部長などを毎日「夜討ち・朝駆け」するような生活になりました。これは、早朝と夜に警察官の家に行き、「この事件につ

「面白いなあ」に着目する

知事や県警本部長、芸能人など、普通は会えない人にも会えたことは大きな財産です。また逆に、そこに行かなければ出会えなかつた「普通の人」たちとの触れ合いも楽しいものでした。地方であるが故に、地元の方との結びつきも強く、特に横手での印象が強いのですが、そこでは雪が一日で約七十センチも積もるんです。朝起きると車が雪に埋もれているので、午前中は町内総出で雪寄せをしていました。そうすると、「読売さんは一生懸命やって、いいねえ」なんて話しかけられて、栄養ドリンクや山菜をもらいました。そこにいなければ触れられない、人情の機微ですよね。

そうして知り合った方々とは今でも交流があります。赴任するたびにどんどん友達が増えていき、世代も職業も違う、

「はどうお考えですか。この検査は進展しましたか」と聞くような仕事です。もちろん、普通はなかなか喋ってはくれませんので、あの手この手で話を聞きだそっと努力していました。

そして最後の半年くらいは、水戸市役所の担当でした。また最近ではアテネ五輪も担当し、柔道の鈴木桂治さん、塙田真希さんなど茨城出身の選手がどんどんメダルを取るので、喜びに沸く現地の表情など、原稿を湯水のように書いていました。

幅広い交友関係が築けました。そうした出会いは仕事にもつながりました。

たとえば、休日に趣味の落語を聞きに行つても、そこでニュースになるものが

あり、記事にすることができる、それは仕事をしたことになります。趣味に限ら

らずとも、自分が面白いなと思ったものにちよつと着目すれば、記事になるん

ですね。例えば、水戸駅前の建物の段差が「お年寄りには不便じゃないのかな」

と思つたことをきっかけに取材をしたこ

とがあります。すると、水戸市役所の担

当者から「バリアフリーは大事だから、今後一〇年でやる」という言葉を引き出

すことができて、それをトップ記事にし

たりしました。自分の着眼点や、人とのつながりが全部仕事になる。自分の生き

方が仕事になる、ということですかね。

### 記者と読者の橋渡し

—現在はどのような仕事をなさっているのでしようか？

今は編成部というところにおいて、経済部・国際部・社会部などから集まってきた記事に見出しをつけてレイアウトをしています。つまり、紙面の割り付けです。まだこの部に入つて半月なので、あまり大きなことはしていませんが、社会面担当の助手や都民版のレイアウト作業などをやっています。（編注：昨年十二月に編成部から社会部に異動）

新聞は、読んでもらえてはじめて商品として成り立つのですよね。編成部は

## 自分の生き方が 仕事になる。



### 「日々是書く」訓練を

—最後にマスメディアを志望する学生にアドバイスをお願いします。

第一に、好奇心旺盛になること。みなが知らないことを伝えるという仕事なのですから、色んなことに「なんでだろう」と思う癖をつけることが大事ですね。それから、第二に、なるべく腰は軽く。考える力ももちろん必要ですが、思いついたら即行動というフットワークの良さも大事です。足で調べあげたもの自分で身につきやすいし、今までとは違つた見方ができるようになります。考える力や効率の上げ方は、足を動かし

いかに記事を面白く読んでもらうかを考えるところです。例えば、記事ができるまでに各部が出していく原稿を選別するという作業があります。まず編集局次長が、その日に作る新聞全体のだいたいの方針を決めます。その後、具体的にどういう見出しをつけるか、レイアウトはどうするかなどの決定は、編成部の担当の人間に一手に任されるのです。よく「ニュースの料理人」と言わわれたりしますね。素材はみんなが持つてくる。それをどう料理して、読者に出すか。見出しやレイアウト一つで、普段は読み飛ばされるような記事を読んでもらえるかもしれない。そして、それが読者の人生の何かに活かされるかもしれない。編成部とはそういう、記者と読者のちょうど橋渡しをしているんです。

それから、特に新聞記者を目指すのであれば、興味がある新聞記事をスクランブルすること、そして日記をつけることをお勧めします。記者というのは、日々是ターンシップなどを体験してみてはどうでしょうか。だから、特に新聞記者を目指すのであれば、興味がある新聞記事をスクランブルすること、そして日記をつけることをお勧めします。記者というのは、日々是書く仕事なんですね。そして「書く力」は毎日書いていないと絶対に身につかない。新聞社の試験は、作文の実力がほとんど合否を決めるといって過言ではありません。新聞記事をスクランブルし、そしてその感想などを日記に綴つてみる。そうすると、自分が話せる「持ちネタ」がどんどん増えるので、入社試験のテーマ作文や直接にも対応できると思いますよ。

(注) キャップ 各持ち場(警察、役所など)の現場責任者、各記者の取材を指示・統括し、テスク(編集責任者と記事の扱いについて折衝する。特に、警察取材のキャップを「サッキヤップ」と呼んだりする)。



ホームカミングデイ2004  
できごとカレンダー

## キャンパスへ帰ろう

第11回

集え!「未来へ帰った留学生」たち



遠藤で、逢いました。

# SFCホームカミングデイ2004

<http://hcd.sfc.keio.ac.jp/>

2004年で3回目となるSFCホームカミングデイ2004が開催された。

初めての秋祭との同時開催という試みのもと、久しぶりの旧友との「出会い」、研究会の担当教員との「出会い」、在校生との「出会い」はどのようなものだったのだろうか。その様子を取材した。

HCDの意義「遠藤で、逢いましょう」。

できごとカレンダー

2004年6月～11月

SFCの卒業生や在学生、教職員が年に一度集まり、互いに交流を深める場として2002年から開催されてきたホームカミングデイ(以下、HCD)。2004年は3回目を迎える、初の試みとして、秋祭との同時開催が実現した。当日は天候にも恵まれ、700名程の卒業生・在校生、教職員が参加した。今回のコンセプトは「遠藤で、逢いましょう」。

7月

6月

(17日)孫福弘元総合政策学部教授が急逝  
(20日)曾我助教授・畠田先端生命科学研究所  
所長らが科学技術政策担当大臣賞受賞

賞

(20日)「初夏の賑わい」2004年度七夕祭  
(21日)ガリバー池横の学生フウンジが閉鎖  
(28日)SFCオープンキャンパス

8月

(4日)故孫福弘元総合政策学部教授を偲ぶ会  
(18日)2004年度9月生卒業式  
(22日)9月生入学式

9月



### SFC三田会の登録デスク

館入り口では、新調したハッピを身にまとい、SFC三田会事務局関係者が会員の登録内容変更、会費納入を受け付けた。当日、住所変更、会費納入を行なった会員はそれぞれ50名程だったそうだ。代表幹事の橋本岳さんは、「来場者数からすると、さらに捕獲率の向上を考えたいところですが、一定の役割は果たしたと見るべきでしょう」と語った。

発足から10年が経過したSFC三田会は、

11月	10月	9月	8月	7月	6月
(16～17日)秋祭・HCD					
(8日)渡辺靖助教授『アフター・アメリカ』 がサントリー学芸賞受賞					
(23～24日)SFC Open Research Forum 2004 （27日）新潟県中越地震復興支援チャリティ イベント「SMILE」					

今後、ウェブサイトを大幅にリニューアルし、会員に対してより充実したサービスを提供していく構えである。

<http://www.sfc.ne.jp/>

## パネルセッション

### 「音楽ビジネスの飽和と新秩序」

HCD、湘南藤沢学会、秋祭の合同企画として行なわれたパネルセッションのテーマは、「音楽ビジネスの飽和と新秩序」。パネラーに、丸山茂雄（247ミュージック代表取締役社長）を迎え、SFCからは稻蔭正彦環境情報学部教授、大岩元環境情報学部教授、村井純環境情報学部教授が参加。また、卒業生からは、アーティストとして幅広く活躍している川口賢太郎氏（3期生）、明石詩子氏（7期生）も参加し、コーディネータは石橋直樹氏（3期生、現在株式会社Governance Design Laboratory代表取締役社長）が務めた。セッションでは、現在の音楽業界、音楽流通とのビジネスにおける問題点、今後のありかたについて活発に議論された。昨今、音楽業界は下降線を辿っていると言われている。しかし、それは現実ではなく、デジタルメディアによつて音楽の楽しみ方が多様化していきることであった。また、音楽の多様化とともに、音楽伝達の方法も変化していく必要があるはずだと議論が展開された。セッションの最後には、相撲秀夫初代環境情報学部長が総評の中で、「音楽を含めたITの世界はSFCにとって最も得意とする分野であり、今後もSFCの研究には期待したい」と述べた。

## 各研究会の卒業生と在学生の出会い

今回のHCDの目的には「卒業生同士の懐かしい出会い」だけでなく、「卒業生と在学生の新しい出会い」も含まれている。そのため、研究会ごとの「再会の場」が各教室に設けられた。



研究会での出会いの様子

## キャンパス内で結婚式？

夕方6時頃、θ館の外では7期生の新郎小池純司さんと、3期生の新婦小林夕香里さんが鎌倉からやってきた人力車に乗っていた。今回の目玉企画の一つ、結婚パーティーのオーラピニングである。提灯のあかりの中、人力車は学生たちの拍手に祝福されながらキャンパス内をゆっくりと廻り、学生食堂に入った。会場の学食には多くの卒業生、教員らが集い、歓談を楽しんだ。

終盤、結婚パーティーはΩ館横に設置されたステージ前へ移動。村井純環境情報学部教授のバンドによる演奏もあり、会場をにぎわせた。その後新郎が、新婦へ誓いの10か条を朗読し、尾崎豊の「I love you」を熱唱した。HCD2004は花火の打ち上げと共にファイナーレを迎える。カスケード脇正面階段で恒例の卒業生集合写真の撮影が行なわれた。

パーティーの企画・運営に携わった総合政策学部2年の川越碧さんは「当日は慌しい1日だったのですが、お2人の幸せそうな姿に、"大変感激しました"。HCDの魅



結婚パーティーの主役のお二人

力は、SFCを学舎してきた人達が、卒業生・在学生という立場を超えて、共に語り合い、楽しむこと。実行委員を通してそれを実感できた気がしています」と感想を述べてくれた。

### SFC卒業生連携担当からお知らせ

#### 「卒業・修了証明書」「成績証明書」のお申し込みについて

（総合政策学部/環境情報学部/政策・メディア研究科）

個人情報保護の観点から、ご本人の意思によるお申し込みであることを確認

させていただくために、**公的機関の身分証明書の提示**が必要になります。

■受付方法：「郵送」または「SFC事務室窓口」

■手数料：和文1通200円／英文1通600円

✓【お問い合わせ先】

慶應義塾湘南藤沢事務室

学事担当 証明書係

Tel:0466-49-3406

手続きの詳細については、ウェブサイトを参照してください。

申込書式をダウンロードいただけます。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/sotusfc.html>

# SFCのこれからを考える

第3回 若手教員に聞く 宮川祥子（看護医療学部専任講師）

## 「SFCでしかできないこと」

これまで幾度となく語られてきた「SFCらしさ」や「これからのSFC像」——それらを分析し、SFCのこれからを語るために新鮮な視点を提示する。第3回目は看護医療学部の宮川祥子専任講師に自由に語っていただいた。

### SFCとの出会い

一橋大学経済学部に入学し、学部3年生から金子郁容教授（注1）に師事。金子ゼミではオペレーションズリサーチやコンピュータのプログラミングなどを学ぶ。同大学院修士課程終了後、実践的な情報工学を学ぶために電気通信大学大学院博士課程へ進学するが、より自由な研究環境を求めて、SFCの政策・メディア研究科に一期生として再入学。半学半教の精神で教員、学生が共に研究するSFCでは、データベース、インターネット、コミュニケーション、この三つがクロスオーバーする領域で自らの研究を深め、現在では看護医療学部専任講師として教鞭をとっている。

### もつたいない！

——政策・メディア研究科を修了し、看護医学部の教員としてSFCに長く身を置かれている宮川さんは、現在のSFCについてどう思われますか？

宮川 今のSFCの学生に対しては、もつたない！って思います。私のように外部の大学を経験しているとSFCの良さがより強く実感できるのかもしれません。最近のこととはわかりませんが、他大学では、別にない！って思います。私のように外部の大学を経験しているとSFCの良さがよく感じられるんじゃないかなと思います。学生同士の交流が自然にできているのは良いことかもしませんが、この環境はもつともつと活用できるんじゃないでしょうか。

——教員同士で、総合政策学部・環境情報学部・看護医療学部の間に交流はあるんですね？

宮川 実はそれが課題のひとつで、今のところあまりないので。最近行なったセミナーはすごく貴重です。たとえば、<sup>タウ</sup>館（大学院棟）のロフトには研究室のしきりがなく、異なる研究室の学生同士が自由に交流でき

るスペースがありますね。私もあそこでいろいろな人と話して良い刺激やアイディアをたくさんもらいました。初めて行った時はこんなにいい場所があるんだと、とても感動していたのに今のSFC生はこの自由な雰囲気の貴重さにあまり気がついてなくて、もつたないなあと思います。学生同士の交流が自然にできているのは良いことかもしませんが、この環境はもつともつと活用できるんじゃないでしょうか。

は多くありません。学生同士でも総・環と看護の研究の情報交換といった交流はやっぱり少ないですよね。



——環と看護の交流はもつと盛んになつたほうが絶対におもしろくなると思います。興味深いデータがあつて、2002年度の学生生活実態調査にモラルの高さの学部間比較が掲載されているんです。一番低いのが環境情報学部で、一番高いのが看護医療学部。総合政策学部はちょうどその中間あたりですね。一般的にモラルは高い方が良いというけれど、高いのは既存の考え方やルールに縛られやすいこと、モラルハザードという側面もあるけれど、低いのは新しいアイディアや制度変革を考えやすいということ、と捉えることができます。こんなにモラルの違う人たちが同じキャンパスにいるということは、大きな可能性を秘めているかもしれない。看護が総・環の二学部と協調していくには、もう少し時間が必要

かと思いますが、両者の活発なコラボレーションによってすごい力が生まれるのではないかと期待しているんですよ。

SFCは学生の声で動くところ  
のメッセージですね。

看護医療学部のおいしいところを食べよう  
——今看護医療学部の学生に対する何かがですか？

宮川 看護の学生に対しては、自分の学部の学生ということもあって、辛口かもしれません。モラルの高さに表現されているように規則をきちんと守る真面目な学生が多いのですが、野心という意味では多少欠けるところがあると思います。どうしてたくさんある看護医療系の学部の中で慶應の看護医療を選んだか。偏差値の高い低いに意味はありません。慶應の看護でしか得られないものがあり、その一番大事なものが、このSFCにあるということであつてほしい。看護のほかに二つの学部があつて、「さまざま研究が渾然一体となつていて」というところをつかみくる人じやないとSFCの魅力を発見できないし、慶應の看護医学部の本当においしいところは食べられないよっていうのが、私たちの学生へ

——SFCに対して、もつといふしたら良い感じを感じることはありますか？

宮川 新しくできた看護医療学部、お隣の総合政策学部と環境情報学部、教員も学生もお互いにもつと「ちよつかい」を出してもいいんじゃないでしょうか。看護医療学部にはたくさんの魅力的な科目があります。

確かに看護と総・環の校舎間を移動するのは大変ですが、興味があれば授業を受けに来てほしいし、もし遠いのであれば、学生から声を上げてほしい。少し非現実的な例えですが、「総・環と看護を結ぶモノレールがほしい」といった声でもいいんです。

——ご自身として、これからSFCでどういうことをしてきたいですか？

宮川 私はIT系の授業を専門としているので、看護とIT、その中でも地域ケアと

ITをどう結びつけていくかということに興味を持っています。eケータウンプロジェクトで構築された藤沢市の地域との関連性や、三学部が連携してプロジェクトに取り組むことができたという土壤を活かして研究をやっていきたいですね。

SFCの教員としては「ここは変えてほしい」という声を上げることのできる学生の不自由な人は危険でした。「危ないから手すりが必要だ」という学生からの声で、現在の手すりがつけられたんです。卒業生たちの声がすでに反映されたところに入ってきた学生はこういうところに気がつきにくい。けれど、まだ新しい看護医療学部に経験があります。こういったSFCの良い伝統は受け継いでいってほしい。私たちはいつも学生から声を上げてほしいと思っています。4月からは新しい大学院もできます。自分の頭で考えられる学生からの声をたくさん聞きたいですね。

——ご自身として、これからSFCでどういうことをしてきたいですか？

宮川 私はIT系の授業を専門としているので、看護とIT、その中でも地域ケアとITをどう結びつけていくかということに興味を持っています。eケータウンプロジェクトで構築された藤沢市の地域との関連性や、三学部が連携してプロジェクトに取り組むことができたという土壤を活かして研究をやっていきたいですね。

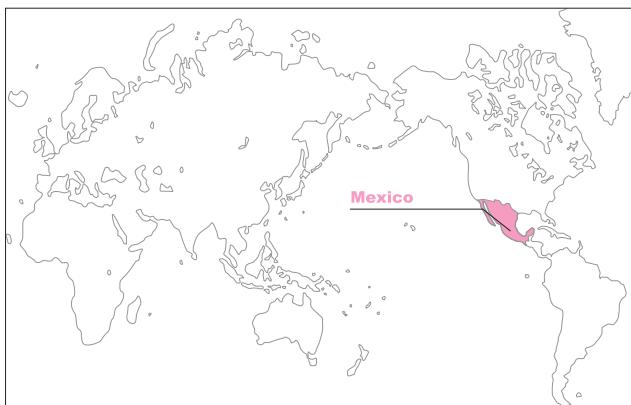
(注2) eケータウンプロジェクト  
介護福祉分野におけるIT技術活用をめざす実証実験プロジェクト。看護医療学部では慶應義塾と藤沢市、藤沢市保健医療財團およびNTT東日本との全面的な協力の下、総合政策学部、環境情報学部、および政策・メディア研究科とともにこのプロジェクトに取り組んでいます。



宮川祥子

(みやがわ・しょうこ)  
看護医療学部専任講師。  
一橋大学経済学部卒業、  
同大学院商学研究科修士課程修了。慶應義塾大学  
大学院政策・メディア研究科博士課程修了。専門は、  
情報セキュリティ、データベース、ネットワーク・  
コミュニケーション。担当科目は、「情報とネットワーク」「看  
護情報とリテラシー」「情報検索とマルチメディア  
表現」。

を作つていきたい。声を上げるだけではなく、それが必要なことでみんなが望んでいることがわかるevidence（証拠）をきちんと示す必要です。私が教える情報科学は、意思決定における情報とevidenceの重要性を説いています。この意識を総・環・看の学生たちに養つてもらい、理想のSFCを築いていくためのお手伝いができればと思います。



# 異国の風

## el viento de extranjero

### 第10回 メキシコ 誇り高きコーヒーを運ぶ

キャンパスを飛び出すSFC生は多い。この企画では、外国を訪れたSFCの学生・団体・プロジェクトに焦点を当て、活動内容や体験をお伝えする。今回は、メキシコと日本をまたいだ活動をしている山本純一研究会フェアトレード・プロジェクトのメンバーにインタビューを行なった。

マヤビニック・ジャパン

—フェアトレード・プロジェクト(FTP)  
について教えてください。



マヤビニックの生産者とその家族を含めた総会に出席

2001年度に卒業した先輩たちが山本教授のもとでフェアトレードの研究を始めたのがこのプロジェクトのきっかけです。その当時から、チアパス州の生産者協同組合のマヤビニックからコーヒー豆を輸入することや、卸し先などを決まつていたのですが、実現する前に、先輩たちは卒業してしまいました。そこで、この動きを引き継いでいこうという山本教授の考へで、2003年4月に実践を通じてフェアトレードの可能性と課題を研究するプロジェクトが作られたんです。現在は10人ほどの参加者がいます。

私たち、マヤビニック・ジャパンというFTPのサブプロジェクトを通して活動しています。マヤビニックとは、ツ

実際に現地へ行くまでは「彼らを助けあげたい」という気持ちがやっぱり強かつたんです。けれども、彼らは誇りを持ってコーヒーを作っています。資金的援助を受けるだけではなくて、実際に貿易を行なうからこそ、自発的に、「より良い豆を作つて、もっとたくさん売りたい」という気持ちになるのでしょうか。私たちに対しても、「援助してくれる人たち」としてではなく、ビジネス相手として接してくれています。「一緒に頑張つてしましよう」と言われた時は「こちらよろしくお願ひします」と、頭が下がる思いになりました。今では私たちも、「助けてあげよう」という気持ちよりも、共に頑張ろうという気持ちが強いですね。

向こうでは、生産者の人たちと細かい打ち合わせをしたり、実際に農園を見せてもらったりします。普段はメールで連絡をとっていますが、どんな豆がほしい

—チアパス州での様子を教えてください。

オツィル語で「マヤの人々」という意味です。コーヒーのフェアトレードを通じて、生産者と消費者の顔が見えるような関係、つまり複雑な流通経路を簡素化し、生産者にも消費者にとつても利益となるような貿易をすることが私たちの目標です。現地の情報を伝えることはもちろん、こちらの情報を向こうに伝える媒体の役割も果たしています。他には、営業や販売、イベントの企画などもやっています。

一緒に頑張りたい。



マヤビニックのオフィスの前で、生産者とコーヒーの麻袋とともに

ン語ではなく、現地語のオツィル語が使われています。男性の中にはスペイン語を話せる人もいますが、女性は話せない人がほとんどですね。しかし、なかには、サンクリストバル・デ・ラスカサスという、農村から車で約2時間ほどところにある都会で、労働者用の学校に通つていて、スペイン語を流暢に話している女の子もいました。

訪問先の生活は、日本人の感覚からすれば確かに「貧しい」と思います。家はまるで掘つ立て小屋のようで、水道設備も十分ではありません。けれど、住んでいる人たちほどでも幸せそうで、子供たちも笑顔が絶えず、彼らと触れあうこと

かとか、輸入の際に使用する船の指示などは、現地で行なっています。ところで、生産者の人たちやその家族と一緒に触れ合うことも、訪問の大きな目的の一つです。私達が訪れた場所は、スペイン語で「マヤの人々」という意味です。コーヒーのフェアトレードを通じて、生産者と消費者の顔が見えるような関係、つまり複雑な流通経路を簡素化し、生産者にも消費者にとつても利益となるような貿易をすることが私たちの目標です。現地の情報を伝えることはもちろん、こちらの情報を向こうに伝える媒体の役割も果たしています。他には、営業や販売、イベントの企画などもやっています。

でこちらまで嬉しくなりました。言葉はほとんど通じず、挨拶くらいしかわからなかつたけれど、心が繋がつたと感じることができました。

また、現地へ行くたびに、生産者の人

たちに新しい情報を提供する事を心がけています。2004年の8月には、日本で取引をしているお店の方々の感想を持

つて行つたり、技術向上のためのアドバイスを聞いて、それを伝えたりしました。

日本式のコーヒーの飲み方を紹介したこともあります。メキシコでは、焙煎し

粉にした豆を直接鍋に入れ、水で煮だし砂糖を大量に入れます。メキシコと日本では、コーヒーの飲み方も作り方も全く違うんですね。だから、自分たちのつ

くったコーヒー豆を、日本の消費者がどのように飲んでいるかを知る機会があれば、生産者の人たちのモチベーションも上がるかなと思い、紹介しました。馴染

まないコーヒーの作り方や味にとまどいもあつたようですが、みんな楽しんでくれていました。

上記の活動を続けていくかということです。学生ですから、現在のメンバーもいつかは卒業します。しかし、この活動はなく

したくない。今後は輸入の量も増やしていきたいですし、現地の人たちに少しでも早く、より良い生活を手に入れてほしい。もちろん、「良い生活」っていうのは私たちが決めるものではありません。



朝食にコーヒー(左)と鶏のスープ(右)を準備する様子

### 今後の課題はなんでしょう。

いかにして、統けていくか

だから、彼ら自身が自分たちにとつての良い生活を選択できるようになる手助けをしたいし、一緒に努力していくたい。まずは、私たちが頑張る。そして、後輩に託していく。この流れを止めないこと。

それが願いであります。いつも根底にある課題ですね。

マヤビニック・ジャパンは、この取材後、2004年11月、2005年2月にも現地訪問を行なつた。

※マヤビニック・ジャパンは、この取材後、2004年11月、2005年2月にも現地訪問を行なつた。

マヤビニック生産者協同組合は先住民の組合で、都会から3時間ほど車を走らせてファイルドワークに参加しました。

マヤビニック生産者協同組合は先住民の組合で、都会から3時間ほど車を走らせた山奥にあります。村の人々は優しく、親身に接してくれました。私は村の人々に頼み込み、特別に村の村長さんの家に一泊だけホームステイをさせていただいたのですが、そこでは、手作りのトルティーヤと獲ってきたばかりの鶏のスープをご馳走になりました。すべてのことが初めての体験で、とても新鮮でした。村の中でも、多くの男性はスペイン語を話せるものの、女性や子供は話せない人がほとんどでした。ですから女性や子供とは言葉ではなく、ジェエスチャードでお互いに少しずつ通じあうことが出来ました。

コーヒー農園といえば、木が整列して並んでいるものだと想像していましたが、実際には農園というよりも、山そのものでした。そこでは、強い日射しや、激しい雨からコーヒーの木を守るために植えられたアボガドやバナナの木が生い茂り、それらの下に背の低いコーヒーの木が植えられていました。農園の土は水分や栄養を豊富に含んでおりとても軟らかく、そこでは村民の手作りの肥料が使われています。そして、木を病気から守るために土に近い幹の表面を削ることもあります。本当に手間をかけて大切に育てられているのだ、ということを実感すること

活用していきたいですね。現在、ホームページやメールマガジン、マンスリーマガジンを作っていますが、それらを使って、飲む人に向けて生産者の人たちのもつと具体的な情報を伝えていきたいです。現地を訪問した際の映像があるので、活用することも検討しています。

でも、一番重要なことは、いかにしてこの活動を続けていくかということです。学生ですから、現在のメンバーもいつかは卒業します。しかし、この活動はなくしたくない。今後は輸入の量も増やしていきたいですし、現地の人たちに少しでも早く、より良い生活を手に入れてほしい。もちろん、「良い生活」っていうのは私たちが決めるものではありません。



携帯電話に興味津々の子供

実際に活動に  
参加して感じたこと

環境情報学部2年

河野 妙子

2004年8月、メキシコのコーヒー農園の様子を知り、フェアトレードについてもっと理解を深めたいと思い、初めにファイルドワークに参加しました。マヤビニック・ジャパンの活動は動き出したばかりです。これからどのようにメキシコの人々との関わりを続けていくのか、初回の訪問で多くの課題を発見できたらよいと思います。この経験を生かして、これからも力強く活動を続けていきたいと思います。

ほかには、具体的なメディアをもつと活用していきたいですね。現在、ホームページやメールマガジン、マンスリーマガジンを作っていますが、それらを使って、飲む人に向けて生産者の人たちのもつと具体的な情報を伝えていきたいです。現地を訪問した際の映像があるので、活用することも検討しています。

でも、一番重要なことは、いかにしてこの活動を続けていくかということです。学生ですから、現在のメンバーもいつかは卒業します。しかし、この活動はなくしたくない。今後は輸入の量も増やしていきたいですし、現地の人たちに少しでも早く、より良い生活を手に入れてほしい。もちろん、「良い生活」っていうのは私たちが決めるものではありません。

# もしもし、一から看護医療学部です！

従来の「看護師養成のための学部」という看護系学部のイメージを根底から覆した慶應義塾大学看護医療学部。その看護医療学部の教員から、学生の相談や質問に対するアドバイスをもらうのがこの企画だ。今回は、保健師であり、地域看護や生態学的環境工学の見地から食についても造詣の深い、佐藤祐子看護医療学部助手が答える。



## ■若いからこそ食には注意を

本当に、「豊かな食」って何でしょう。まずそこから考えてみませんか？ 食の豊かさには、いくつかの段階があると思います。なにはともあれ、私たち日本人は飢え死にすることはないでしょう。すなわち、とりあえず命をつなぐための資源として捉えた場合、私たちの食は豊かです。これを”食の豊かさの第一段階”としましよう。次に、健康的に生きていくためには適正な力口リーや栄養素が満たされる必要があります。これが第二段階の豊かさです。さらに、

がいかに忙しく活動しているかよく知つてゐるつもりです。その忙しさにかまけてつい食が疎かになつてしまふのも無理からぬことかもしれません。だけどちょっと待つて！ 若い身空であればこそ、食には注意を払う必要があるのですよ。確かに「そんなに神経質になる必要はない」けれど、それは程度・バランスの問題であつて、無知無関心の言い訳にはならないのですね。

## ■適正な力口リーを適正な時間に摂ろう

”食の豊かさの第二段階”について考えてみましょう。  
身体にはエネルギー、つまり熱量（カロリー）が必要です。このエネルギーは、筋肉の運動・神経の活動・体物質の合成のために使われます。皆さんの年齢であれば、一日に必要なエネルギー量は、男性2500kcal・女性2000kcalが目安です。相談者の食事のエネルギーを計算してみましょう。お昼

あわただしい学生生活を口実にして、ついついイイカゲンな食生活を送ってしまいます。朝食を抜いて昼は学食で毎度のカレー、夜は外食あるいはでき合い弁当……。「こんなことではいけない！ 豊かな食生活を送らなくては」という気持ちもなくはないですが、若いうちならある程度の無理が通るような気もしますし、そんなに神経質になる必要はないですよね？ しかしいったい、豊かな食って何だ！

私は教員として、SFCの学生の皆さん

のカロリーが約650kcal、夜の弁当が焼肉弁当だとすると約900kcal、合計約1550kcalです。ちょうど朝食ぶんのカロリーが足りません。

一方、飽食といわれる現代では、油・砂糖がたっぷり使われているお菓子などの間食や飲酒によって、いつの間にかカロリーを過摂取してしまっていることがあります。

例えば、ポテトチップス一袋やチョコレート一箱は400kcal前後ありますから、これだけでおにぎり三つ分くらいのカロリーになってしまいます。お酒も中ジョッキでおにぎり一個半ぶんのカロリーがありますからね。消費エネルギーをオーバーすると、当然太るわけです。余分なエネルギーは脂肪として身体に蓄積されていくのですね。太るだけで済めばまだいいのですが、血中のコレステロールや中性脂肪も増加していきます。血管内にコレステロールがたまつてドロドロと塊になるわけです。ヘドロのようなものでしょ。これが血管の内壁に付着し、血管の弾力性がなくなります。動脈硬化ですね。将来の話をすると、基礎代謝（生命を維持するために身体が最低限必要とするエネルギー）は齢を重ねるにつれて減りますから、いつまでも二十代の時分と同じように食べていいればますます太ってしまうことがあります。

このような食生活は糖尿病・高血圧症・高脂血症など生活習慣病の原因となります。生活習慣病は、名前のとおり、食事などの

生活習慣が約65%の割合で要因となり起こるといわれています。かつて成人病と呼ばれたこの生活習慣病は、今では次第に若年層までをも蝕み始めていますが、それでも

即時に顕現するものではないので「とりあえず今はテキトーに食べても平氣だろう」と、つい思ってしまうのですね。

しかし、今の今しっかりと考えておかないと、後々の人生にまで影響するわけです。「若いうちならある程度の無理が通る」と言われれば確かにそうかもしれません、その無理は後々響いてくる。皆さんには、せつかく働き盛りの時に、若い頃の食生活がもとで病気になつたなんてことにはなつてほしくないです。予測可能な未来につかり対処できることは大学生が本来持つべき能力であり想像力ではないでしょうか。

それから、適正な時間に食事を摂ることも大事です。最近は朝食を抜く人が多いですが、その習慣はどうやら大学生・早い人では高校生でついているようなのです。朝食を抜くといふことは、身体が燃やすエネルギーを摂らないで一日の活動を始めてしまうといふ。特に脳は、身体が眠っている間も活動を続けていますから、朝にエネルギーを補給しなければ頭の働きが鈍いままで一日がスタートしてしまう。一度身についた食習慣はなかなか変えたいのですが、朝食を食べる習慣のない人は、パン一個・牛乳一杯・バナナ一本からでも始めてみましょう。もちろん、三食きちんと摂ることが理想ですよ。

## ■必要な栄養素をバランスよく摂ろう

カロリーとともに、栄養素にも気を配りましょう。

炭水化物・たんぱく質・脂質は、エネルギー源になります。たんぱく質は、身体を作る材料になります。その他にビタミンやミネラルがあり、身体機能を調節したり、体内で起る化学反応を触媒したり、骨や血球の成分になつたりします。皆さんには、身体の成長がほぼ終了している年齢とはいえ、肌・筋肉・血液・骨などの身体の組織は常に生まれ変わっています。その原料を食事から摂っているのですから、バランスよく原料を補給しておかなければなりません。骨密度が低下していくけば、五十・六十代で骨がスカラスカになつて（骨粗鬆症）、ちょっと転んだだけで骨折してしまってことになりかねません。またお肌をきれいに保つなど、美容面でも栄養素が活躍します。相談者のように忙しさにからまけて単調なメニューを選んでばかりでは、栄養素が偏るというものです。好物ばかり食べるのも、食事をお菓子のようなもので済ませてしまうのも同じことです。レトルト食品も栄養素が偏りがちになりますね。

できるだけ多品種の食品を食べてください。理想は一日30品目以上！一食の中に白・黄・緑・黒・赤の食材（緑は野菜、赤は肉類……）が彩りよく入つていればよいでしょう。見た目も美味しそうになります。

すしね。外食ならば、定食のようなものがバランスが取れているでしょう。弁当であれば、主食3・主菜2・副菜2の割合で、おかずを一品つけ足すといった工夫も必要でしょう。

少し単調な食事が続いたなと思うたら、何日間かの食事を振り返って、欠けていた食材を優先して食べください。学食のバイキングをうまく利用するとよいでしょう。

私としては、献立ごとにエネルギーの表示や栄養素の表示をして、理想の献立も置いて、皆さんが必要な食事を感覚としてつかめるような工夫があるといなと思いますけどね。また、春・秋の年二回行なわれている大学生協主催の食生活相談を利用してもいいでしょう。

特に野菜は不足しがちだといわれていますが、皆さんはこれを日に300g食べるのが理想だということを知っていますか。野菜はカロリーがなく満腹にならない食材ですから、意識して食べないと充分摂取できない。だから、いわば頭で食べる、つまり知的な食行動が要求されているのです。

それから、美味しいスイーツですが、これはカロリーが多くて栄養素が少ないというのが特徴ですから、まずはきちんとした食事を摂つた上で、適量を楽しむことが大切ですよ。

## ■ 食の安全について

次に、"食の豊かさの第三段階"、総合的な安全性についてみましょう。

現在、日本で使用されている農薬は、農林水産省が許可したものとしては約500種類あります。厚生労働省の管轄において残留農薬基準も決められ、厳しくチェックされていますから、農薬がすぐに健康に影響を及ぼすことはないといつていいでしょう。

しかし、自然界に放出された化学物質は、食物連鎖 (food chain) のつながりのなかで生物濃縮されることがあります。例えば、PCB・水銀・DDTなどは魚や米に濃縮され、人体に入ります。これらは環境汚染物質として問題になり、今では使用が禁止・抑制されています。一時話題になつたダイオキシン類は、日本でもかつて使われていた農薬の不純物です。それがいままだ分解されないまま、体内に蓄積されていつているというわけです。

このような例を見ると、たとえ現在の人間の健康には直ちに害を及ぼさないものであつても、将来にいたるまで安全を保障できるものではないことが分かるでしょう。これは人間だけではなく、地球全体の生命に関する問題です。とりあえず今の安全が確保できればよいという価値観を超えたところで考えていかなければ、本当の意味での「豊かな食」にはたどり着けないのです。

この問題に対処するために皆さんの普段

の食生活のレベルでどうしたらしいのか、私も迷うところです。「見えない現状」を把握し、想像力を働かせて、一緒に解決策を考えていってほしいと思います。

## ■ さらに高次の豊かさを目指して

SFCの学生に特に大げにしてほしいのが、「リアル・コミュニケーションの場としての食」です。これは、これまで述べてきた食の豊かさの段階の、さらに高次の段階にある要素でしょう。いま社会的に孤食（注1）が問題になっていますが、独りでぼそぼそと食べるより、仲間の顔を見てわいわいコミュニケーションを取りながら食べるほうが豊かに決まっています。家族や友人と食事をする人は多種類の食品を食べているという調査結果もあり、自然と多種類の栄養を摂る環境ができることがあります。それ以上に、ネットワーク・コミュニケーション全盛のキャンパスであります。そこで、仲間と一緒にテーブルを囲んで食べる楽しさを大切にしてほしい。やはり、独りで食べるのにはまずいのです。

ところで、SFCではカリキュラム上、「ウェルネス」が重視されているようです。「保健衛生」と「体育I・II・III」を必修科目とし（注2）、その二本柱で学生のウエルネスを維持・向上させようとしています。しかし、ウェルネスを考える時には食

その点、大学が提供する食環境はまだ万全とは言いがたい部分もあるでしょうが（注3）、一方、皆さんの自助努力・自己管理能力も必要であることは、これまで述べてきましたとおりです。

最後になりましたが、食材の産地が身近にあるということを指摘しておきましょう。地元特産の美味しい豚肉・牛肉や卵もあるそうです。季節ごとの新鮮な野菜・果物などは、美味しいだけでなく栄養素も高いといわれています。産地の様子を自分の目で確かめ、これらをできれば自分で調理して、手触りや香りなどを含め丸ごとごつそり五感で味わうのも食の豊かさでしょう。

最近、「スローフード」という言葉をよく聞くようになりました。地域で生産された食物を、その地域で継承されている食文化のもと無駄なく利用すること。これによつて、質の高い郷土食や小規模生産の食品などの多彩な味とそれを提供する生産者を

守つたり、環境に優しい食のシステムに行ったりすることを推進する運動のことです。これは地球温暖化防止にも貢献するのですよ。人間の生活行動の中で、物質を調達しなければならないのは「食」です。食材を運搬する距離が短くなるわけですから、運ぶために使われる化石燃料の消費も抑えられるわけです。つまり、CO<sub>2</sub>削減効果をねらうことができるわけです。このように毎日の食を通して社会や文化に貢献することも食の豊かさといえるのではないでしょうか。普段の忙しいキャンパスの生活では無理であっても、イベントなどの機会をとらえて楽しんでください。それを通して地域の人たちとの交流が生まれることも期待します。

(注1) 孤食 家族など本来一緒に食事を摂るべき存在がいるにもかかわらず独りで食事を摂ること、あるいは摂らざるを得ないことは、看護医療学部では「体育Ⅰ・Ⅱ」のみ。

以上、学生の皆さんと食との関係について、ごく基礎的な考え方を提示しました。今の社会状況を眺めると、サプリメントの隆盛など食に関する興味深いトピックがたくさんあります。食について向き合うことは人生と向き合うこと。ゆつくり美味しく

佐藤 祐子（さとう・ゆうこ）  
看護医学部助手。聖路加看護大学を卒業後、横浜国立大学  
大学院で生態学的環境工学（環境調和まちづくり）を専  
攻。役場や企業の健康管理室で保健師としての実務経験も  
持つ。研究テーマの一つとして「人を取り巻く環境」として  
「の食」を取り上げている。

# KEIO SFC REVIEW バックナンバー

『KEIO SFC REVIEW』は湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部そして大学院政策・メディア研究科の研究・教育活動を促進し、学外との交流を深めることを目的に年4回刊行しています。SFCのキャンパス紹介をはじめ、教員・学生の最新の活動内容を掲載している広報誌です。

18号以降のバックナンバー・年間購読をご希望の方は、下記宛先までご連絡ください。なお、年間購読の場合は、手数料を含め合計1,800円(税込)となり、年間を通じてのご購読の場合は200円の割引となります。

問い合わせ先

慶應義塾大学湘南藤沢学会

TEL ☎ 0466-49-3437

FAX ☎ 0466-49-3594

MAIL ✉ gakkai@sfc.keio.ac.jp

No.18

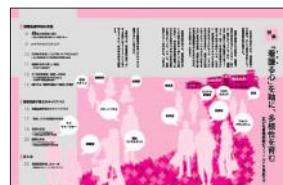
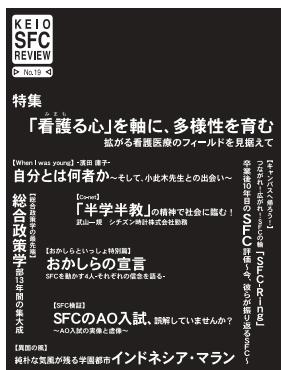


特集

進化する言語教育

これからのリーダーに求められる言語能力とは？

No.19



特集

「看護る心」を軸に、多様性を育む

拡がる看護医療のフィールドを見据えて

No.20



特集

地域を、社会を、

やがて世界を変えるSFC生

No.21

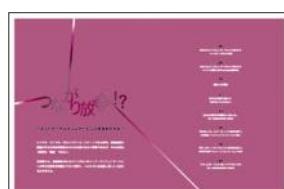
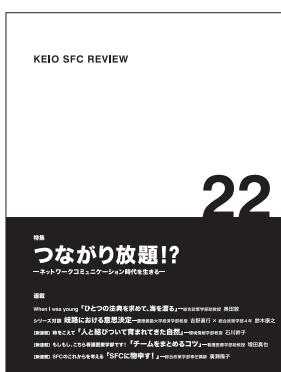


特集

認知・身体科学の人間探究

—古からの何故？に、最先端が挑む

No.22

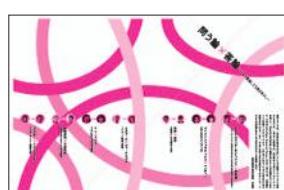
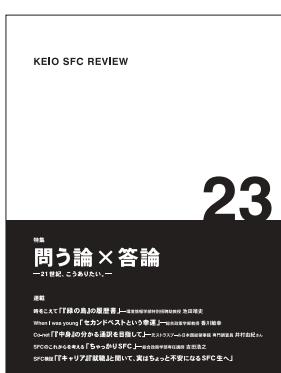


特集

つながり放題！？

—ネットワークコミュニケーション時代を生きる—

No.23



特集

問う論×答論

—21世紀、こうありたい。—

## ■編集幹事

國枝 孝弘 (総合政策学部助教授)

## ■編集長

関口 仁美 (環境情報学部2年)

## ■副編集長

### 特集担当

三野 泰宏 (環境情報学部2年)

### 連載担当

朝倉 麻衣 (総合政策学部2年)

## ■編集

### 特集

河村 武志 (2005年3月卒業)

田村 佳菜 (環境情報学部2年)

北澤 嘉英 (総合政策学部2年)

平野 雄大 (総合政策学部2年)

西浦 華織 (総合政策学部1年)

野口 諒子 (総合政策学部1年)

神谷 健 (総合政策学部1年)

### 時をこえて

百谷 伶奈 (総合政策学部2年)

平野 雄大 (総合政策学部2年)

三野 泰宏 (環境情報学部2年)

### When I was young

神谷 健 (総合政策学部1年)

吉田 賢一 (総合政策学部2年)

### Co-net

平野 雄大 (総合政策学部2年)

桂山奈緒子 (総合政策学部2年)

百谷 伶奈 (総合政策学部2年)

神谷 健 (総合政策学部1年)

### キャンパスへ帰ろう

出口香央里 (総合政策学部2年)

山ノ内理恵 (2005年3月卒業)

桂山奈緒子 (総合政策学部2年)

小野島茉莉 (総合政策学部1年)

### SFCのこれからを考える

小野島茉莉 (総合政策学部1年)

北澤 嘉英 (総合政策学部2年)

### 異国の風

藤山 奈月 (総合政策学部2年)

桂山奈緒子 (総合政策学部2年)

稻田 桃子 (総合政策学部2年)

### もしもし、こちら看護医療学部ですか！

河村 武志 (2005年3月卒業)

平野 雄大 (総合政策学部2年)

### バックナンバー

両角 未央 (2005年3月卒業)

関口 仁美 (環境情報学部2年)

### レイアウト

普門 正浩 (2005年3月卒業)

両角 未央 (2005年3月卒業)

三野 泰宏 (環境情報学部2年)

桂山奈緒子 (総合政策学部2年)

朝倉 麻衣 (総合政策学部2年)

野口 諒子 (総合政策学部1年)

小野島茉莉 (総合政策学部1年)

### 写真

三野 泰宏 (環境情報学部2年)

### 付録 模型

HAL-CURATION

(稲葉 佳之 +坂口祐)

### 湘南藤沢学会

#### KEIO SFC REVIEW担当

堀 茂樹 (総合政策学部教授)

### 事務局

田坂 真美

## 編集後記

教養とは知的好奇心を抱いて世界を拓いていく態度と、発見することに喜びを感じられる柔軟な精神のことではないだろうか？遊ぶという行為が、何かを達成するための手段ではなく「遊んでいる」時間そのものが大切なように、「学ぶ」ことも、ある目的のために知識を蓄えるという以上に、学ぶプロセスに生きがいを感じることであると考える。しかし現実の社会においては、結果や目的といったものが大切にされることは事実である。大学は、そうしたゴールを気にすることなく、すべての時間を「学び」に割くことができる貴重な空間である。もちろんその知的好奇心を大学に限定する必要はない。時には「学生」という衣を剥ぎ取って、世界と対峙してみよう。発見は自分の発見にもつながるはずである。

編集幹事 國枝 孝弘

さまざまな立場の人たちに「あなたの考える教養とは何ですか？」と聞い、大学生のうちにしておきたいことは何かと考えたのが今回の特集である。この難問に対し、返ってくる答えは正に人それぞれであった。しかし不思議なことに、どの答えにも納得がいくのである。「正解」はあり得ず、自信と自戒の念を併せ持ち、自分なりの答えを考える。この問いは、そのまま各人の人生観を問うているに等しかったのではないだろうか。

「教養とは何か？」という問い合わせ用意するのはあなたであり、私である。そして、じっくり腰を据えて答えを用意すべき絶好の機会を、私たち大学生は得ているのだ。

24号編集長 関口 仁美



■ 2005年3月1日 発行

■ 発行人 熊坂 賢次

■ 発行所 慶應義塾大学 湘南藤沢学会

〒252-0816 神奈川県 藤沢市遠藤5322

Tel 0466-49-3437

<http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/>

[gakkai@sfc.keio.ac.jp](mailto:gakkai@sfc.keio.ac.jp)

■ 制作・印刷 株式会社ワキプリントピア

〒252-0815 神奈川県 藤沢市石川4-3-19

Tel 0466-87-5811

Fax 0466-88-6560

<http://www.printpia.co.jp/>

■ 無断転載・複製を禁じます。

ご相談は慶應義塾大学 湘南藤沢学会までお寄せください。

■ 本誌の4~5ページでは、『広辞苑』(岩波書店)、『新明解国語辞典』

(三省堂)、『現代教育用語辞典』(北樹出版)、『国語学習辞典』(日本標準)

のページの複写を利用し、コラージュ的に構成させていただきました。

KEIO SFC REVIEWは  
編集委員を募集しています。

雑誌記事の編集、レイアウト、校正、写真に興味のある方は一緒にKEIO SFC REVIEWを作りませんか？

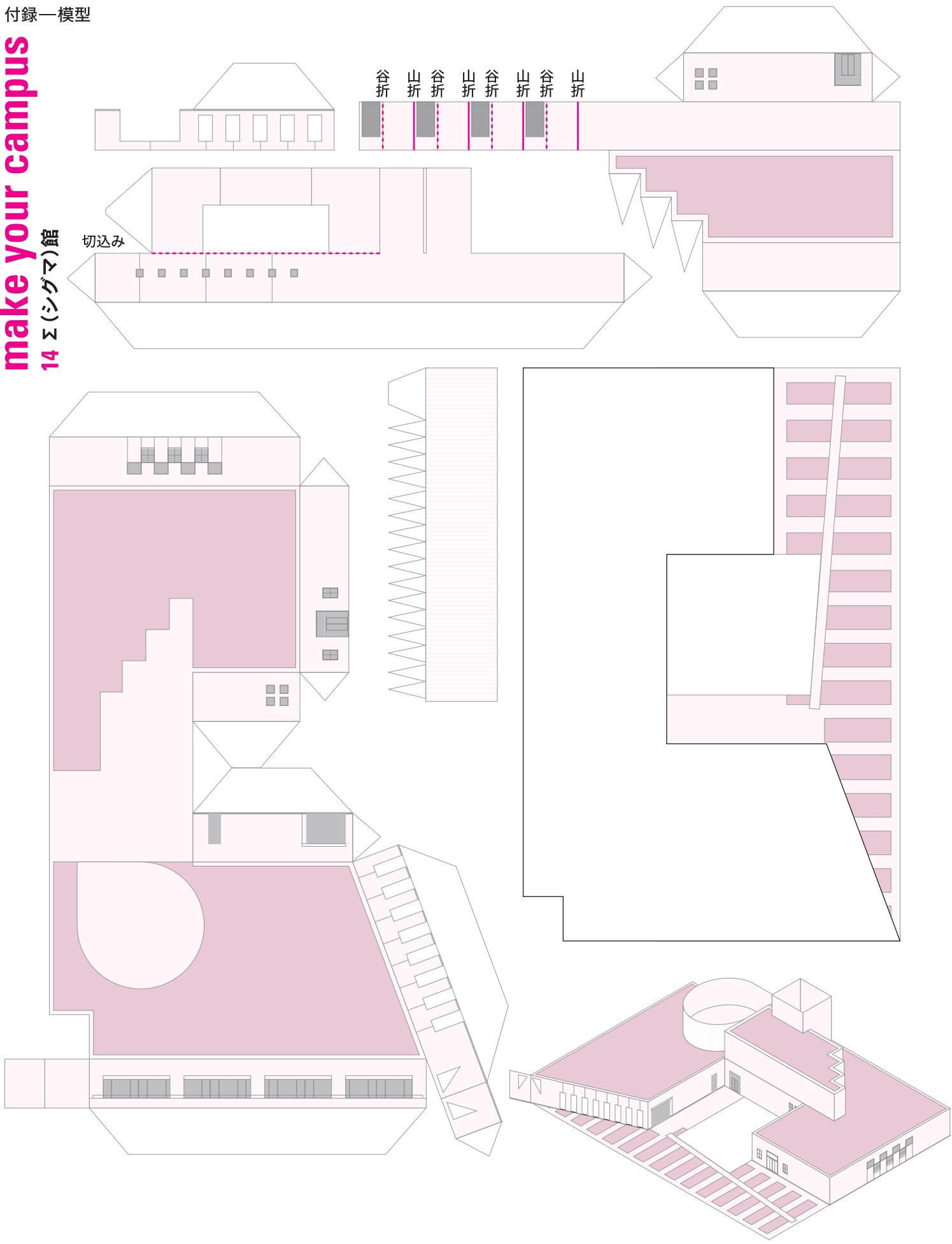
WEB <http://sfcreview.sfc.keio.ac.jp>

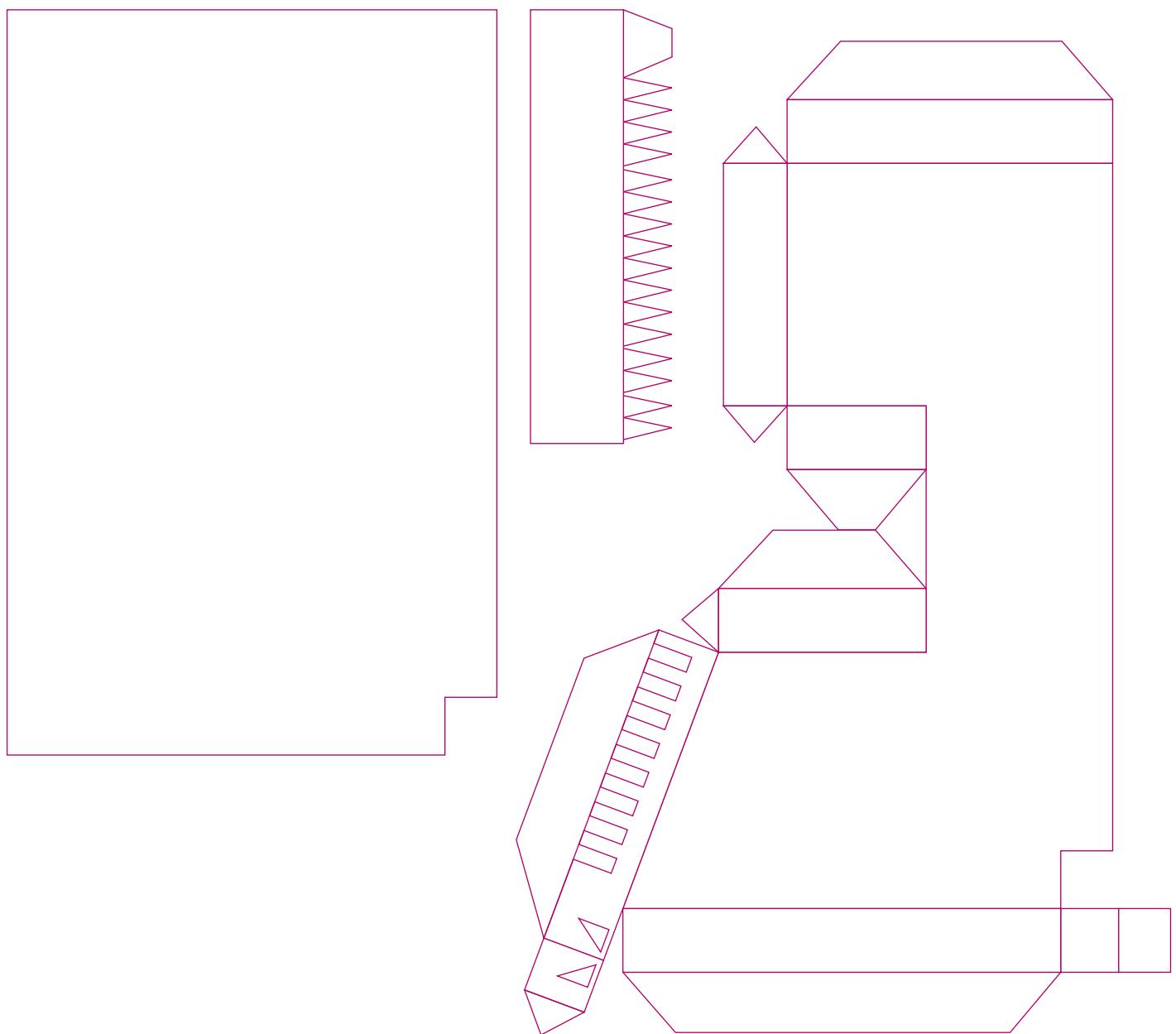
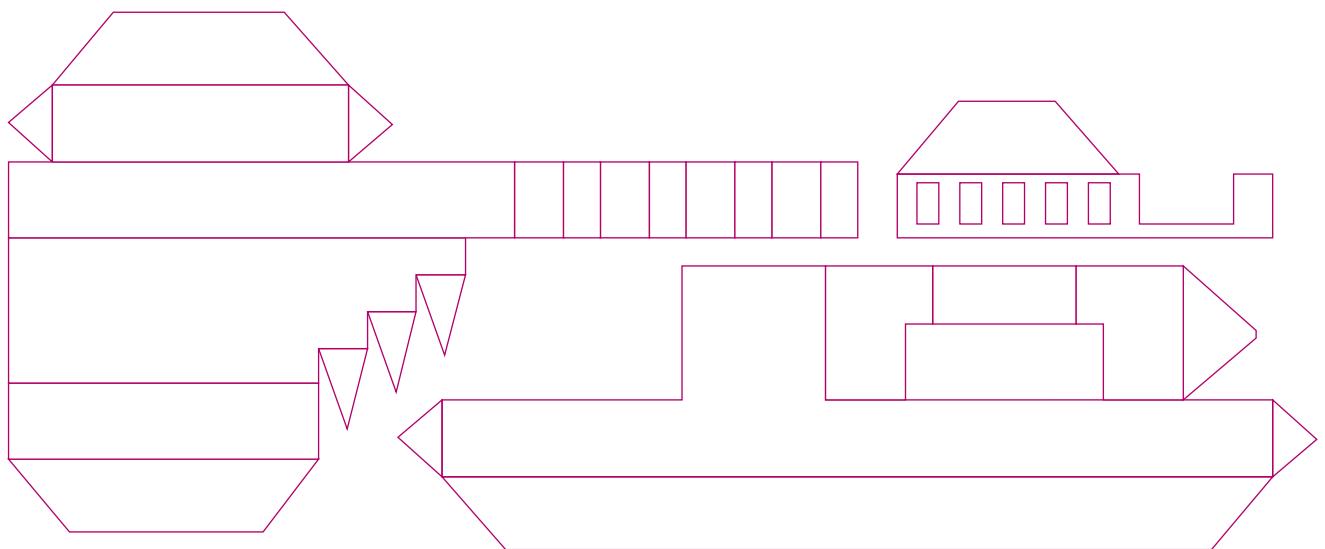
MAIL [gakkai@sfc.keio.ac.jp](mailto:gakkai@sfc.keio.ac.jp)



# make your campus

14 Σ(シグマ)館







**KEIO SFC REVIEW No.24**

**湘南藤沢学会 2005.03.01**

**ISSN 1343-3318 定価 300円(消費税込)**